

# リアホナ


記憶にとどめる  
栄えある日、  
24ページ

家庭で救い主について  
教える方法、  
10ページ

主に導かれ——  
ジョセフが歩んだ  
パルマイラへの道、  
14ページ

より良い弟子となる——  
ルカによる福音書  
からの教え、28ページ





「あなたがたのうちで、  
自分の子が  
パンを求めるのに、  
石を与える者があるか。  
魚を求めるのに、  
へびを与える者が  
あるか。

このように、  
あなたがたは  
悪い者であっても、  
自分の子供には、  
良い贈り物をするを  
知っているとするば、  
天にいます  
あなたがたの父は  
なおさら、  
求めてくる者に  
良いものを  
下さらないことが  
あるか。」

マタイ7:9-11





メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——  
家族は永遠に  
ヘンリー・B・アイリング管長
- 7 家庭訪問メッセージ——  
イエス・キリストの神聖な特質  
——徳

特集

- 10 家庭で「キリストのことを  
説教」する方法  
ダレン・E・シュミット  
キリストを中心とした家庭を築くための  
アイデア
- 14 パルマイラへの道  
マシュー・S・ホランド  
パルマイラへの道——最初の示現  
の地であり、金版が眠っていた地  
——それはジョセフ・スミスと彼の  
家族にとって、決して易しい道では  
ありませんでした。
- 20 救いを求めて  
コニー・ゴールディング  
個人的な試練や欠点、難しい状況  
のために——身動きが取れないと  
感じて——救い出される望みが  
あります。
- 24 神権回復の栄えある日  
L・トム・ペリー長老  
主が地上に主の教会と神権を回復  
して下さったことに、わたしたちは  
どれほど感謝するべきでしょう。

- 28 弟子の務めについての  
救い主の教え  
ケイシー・W・オルソン  
エルサレムへ向かうキリストの最後  
の旅で起きた4つの出来事は、わた  
したちがより良い弟子になる方法を  
教えてくれます。
- 34 人間をとる漁師  
スコット・D・ホワイティング長老  
あるワードでは、適切に機能する  
ワード評議会が全てに変化をもたら  
しました。

シリーズ

- 8 教会での奉仕——  
愛について学んだこと  
ジャニス・テイト
- 9 熟考——ハチドリ救助  
ウィリアム・ホガン
- 38 末日聖徒の声
- 80 また会う日まで——忘れなさい  
ボイド・K・パッカー会長

表紙

表紙——写真/レスリー・ニルソン  
表紙裏——写真/リドバン・チェリク  
/iStock/Thinkstock  
裏表紙裏——写真/コディー・ベル

46



42 主の保証を信頼して

ミンディ・アン・リービット

即座に解放する代わりに、主は試練のさなかに保証というかけがえのない祝福を与えてくださいます。

46 転勤はありません

リナ・邱欣 遙

自分がこの伝道地域にもう6週間残ることになったという報告を受けたときには、耳を疑いました。



こんげつごう なか  
今月号の中に  
かく  
隠れている

リアホナを  
さが  
捜しましょう。

ヒント——

じどうしゃ  
自動車のほかに  
うんでん  
運転できるものは  
なん  
何でしょう。

48 慌ただしいペースの世の中で生きる  
ディーター・F・ウークトドルフ管長  
これらの4つの関係に焦点を絞ることで、あなたの生活を簡素化しましょう。

52 わたしたちのスペース

54 バプテスマのヨハネのように  
福音を分かち合う

ライアン・カー

あなたの伝道はバプテスマのヨハネの伝道とどのように似ているでしょうか。

56 でも、この場合は  
どうでしょうか——

伝道に出ることについての質問

自分が伝道に出る備えができていないかどうか心配ですか。これらのよくある質問と答えが助けになるでしょう。

60 質疑応答

友人の一人が、何か悪いことが話題に上ったときにそれが理解できるよう、一度だけそのことを体験してみたいと言います。そうしない方がよいと分かってもらうにはどうしたらよいでしょうか。

62 聖文研究パズル

コディー・フィリップス

パズルと聖文研究は、取り組みれば取り組みほど全体像が見えてきます。

65 福音で結ばれた姉妹たち

パオラ・サラヒ・ヘルナンデス・クルス

パオラの友達は独りぼっちだったので、パオラは福音の祝福を分かち合いたいと思いました。



72

66 特別な証人——  
どうしたらせいいいのみちびきを受けられることができますか

L・トム・ペリー長老

67 音楽——せいいい  
ジーン・P・ローラー

68 聖文の時間——  
良い羊かい

エリン・サンダーソン

70 わたしたちの ページ

71 新約聖書に 出てくる人——  
よい ひつじかい

72 スティーブンの最初の未来の父の日  
ケリー・ジョージ・パーシル

スティーブンのお母さんは、父の日にスティーブンがかなしい思いをしないように、あるアイデアを思いつきました。

74 マイアのあかし

アメリア・ホーキンス

マイアはあかしがほしいと思いました。それにはどうしたらいいのでしょうか。

76 小さな みんなのために——  
じゅうぶんのーで たてた 家

ジャネル・ウィリアムズ



48



リアホナ 2015年6月号  
第17巻6号(12566300)

末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、ティーター・F・ウーグトルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリ、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセン

編集長: クレグ・A・カードン

顧問: マービン・B・アーノルド、クリストフェル・ゴールデン、ラリー・R・ローレンス、ジェームズ・B・マルティノ、ジョセフ・W・シターティ

実務運営ディレクター: デビッド・T・ワーナー

業務ディレクター: ピンセント・A・ボーン

教会機関誌ディレクター: アラン・R・ロイボーク

ビジネスマネージャー: ガーフ・キャン

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ライアン・カー

出版補佐: リサ・カロリナ・ロベス

執筆・編集: フリッターニー・ピーティ、デビッド・ディクソン、デビッド・A・エドワーズ、マシュー・D・フリットン、ローリー・フラウ、キャレット・H・ガーフ、ラリー・ポーター、ガント、ミンディ・アン・リービット、マイケル・R・モリス、サリー・ジョンソン、オデカーク、ジョシュア・J・パーキー、ジャン・ピンボロー、リチャード・M・ロムニー、ホルム・バンテンバーク、マリッサ・ウィティン

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: タッド・R・ピーターソン

デザイン: ジャネット・アンドリュース、フェイ・P・アンドラス、マンティ・M・ベントレー、C・キッポール・ポット、トーマス・チャイルド、ネット・ギネス、コリン・ヒンケル、エリック・P・ジョンソン、スーザン・ロフブレン、スコット・M・ムーイ、マーク・W・ロビンソン、ブラッド・テアー、K・ニコル・ウオーケンホースト

版権および許諾コーディネーター: コレット・ネベカー・オーヌ

制作主幹: ジェン・アン・ピーターズ

制作: コニー・パウソフ、ブリッジ、ジュリー・パーデック、ケイティ・ダンカン、ブライアン・W・ギューギ、デニス・カービー、ギニー・J・ニコルソン、ゲイル・テイ・ラファティ

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: スティーブン・R・クリスチャンセン

日本語版翻訳課長: 森田康貴

●定期購読は、「リアホナ」[注文用紙]でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30

電話: 03-3440-2351

年間購読: 国内 1,030円(送料込み)

海外 1,030円(+送料実費)

海外在住の方はお近くのデストリビューションセンターへのお申し込みをお勧めします。

普通号/大台号 100円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ [iahona.lds.org](http://iahona.lds.org) からお送りください。電子メールの場合は [iahona@ldschurch.org](mailto:iahona@ldschurch.org) へお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。

Liahona, Rm. 2420, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語、アルメニア語、ヒスラマ語、ブルガリア語、カンボジア語、セブアノ語、中国語、中国語(簡体字)、クロアチア語、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、英語、エストニア語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語、ハンガリー語、アイスランド語、インドネシア語、イタリア語、日本語、キリバス語、韓国語、ラトビア語、リトアニア語、マダガスカル語、マーシャル語、モンゴル語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ルーマニア語、ロシア語、サモア語、スロベニア語、スペイン語、スワヒリ語、スウェーデン語、タガログ語、タヒチ語、タイ語、トンガ語、ウクライナ語、ウルドゥー語、ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2015 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合に複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——[cor-intellectualproperty@ldschurch.org](mailto:cor-intellectualproperty@ldschurch.org) にご連絡ください。

**For Readers in the United States and Canada:**  
June 2015 Vol. 39 No. 6. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at [store.lds.org](http://store.lds.org). (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 707.4.12.5). NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.

# 家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に二つの例を挙げます。



「神権回復の栄えある日」24 ページ——  
図を使って、神権がどのように継承されてきたかを説明するとよいでしょう。アダムから始め、旧約の預言者たち、イエス・キリスト、キリストの弟子、そしてジョセフ・スミスまで、一人ずつ線で結びます。バプテスマのヨハネがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにアロン神権を授けたときに語った言葉を暗記してみましょう。さらに、この出来事的重要性について話し合うとよいでしょう。ヨハネの言葉は教義と聖約 13:1 に記されています。

「マイアのあかし」74 ページ——  
一緒に記事を読んだ後、証を得る「方法」について話し合うとよいでしょう。例えば、祈る、聖文を読む、預言者や使徒の言葉を聞く、他の人の証を聞く、自ら証を述べる、などです。証がどのような点で光と似ているか話し合います。その後、両親は自分の証を述べ、子供が望めば子供にも証や気持ち話をしてもらおうとよいでしょう。

## あなたの言語で

[languages.lds.org](http://languages.lds.org) で、「リアホナ」や、教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。

## 今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

- 愛, 8, 40
- 証, 56, 74
- イエス・キリスト, 7, 10, 20, 28, 42, 48, 54, 66
- 祈り, 10, 74
- 教え, 10
- 音楽, 8, 53, 67
- 回復, 14, 24
- 家族, 4, 10, 48, 72
- 家族歴史, 4
- 活発化, 9
- 希望, 42
- 救助, 9, 20
- 悔い改め, 56
- 雇用, 39, 52
- 再臨, 54
- 指導力, 34, 46, 80
- しんがいの、76
- 贖罪, 20, 42
- 試練, 20, 42, 52
- 神権, 4, 24
- 神殿活動, 4, 6, 70
- スミス, ジョセフ, 14
- 聖文, 62, 68, 71
- 聖霊, 62, 66, 67, 74
- 父親, 72
- 仕え, 教え, 導く, 9, 28, 34
- 弟子の務め, 28
- 伝道活動, 54, 65
- 伝道部, 40, 42, 46, 54, 56
- 天の御父, 48
- 徳, 7
- 忍耐, 38
- バプテスマ, 65, 70
- 奉仕, 8, 24, 34, 41, 48
- 無私の心, 28
- モルモン書, 10
- 赦し, 80
- ワード評議会, 34



大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・  
アイリング管長

# 家族は 永遠に

**家**族を永遠につなぐ神権の力は、神の最も大いなる賜物たまものの一つです。救いの計画を理解している人は皆、その永続する祝福を切望します。末日聖徒イエス・キリスト教会の奉獻された神殿で執行される結び固めの儀式においてのみ、家族は永遠に一つにつながれると、神は約束しておられます。

このことを可能にする神権の鍵が、カートランド神殿においてジョセフ・スミスのもとを訪れた預言者エリヤにより、地上に回復されました。それらの神権の鍵は、末日聖徒イエス・キリスト教会の生ける預言者を通じて途切れることなく今日に至るまで継承されています。

救い主は死すべき世で務めを果たしておられたとき、使徒の頭であるペテロに告げた言葉の中で、家族を結び固める力について次のように言われました。「よく言うておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天でも皆つなぐれ、あなたがたが地上で解くことは、天でもみな解かれるであろう。」(マタイ 18:18)

日の栄えの王国においてのみ、わたしたちは永遠に家族として住むことができます。天の御父と救い主の前で家族としてそこにいることができます。預言者ジョセフ・スミスは、そのすばらしい経験を教義と聖約の中で次のように述べています。

「救い主が御姿みすがたを現される時、わたしたちは、救い主をありのままに見るであろう。わたしたちは、救い主がわたしたちのような人間であるのを見るであろう。」

ここでわたしたちの間にある交わりが、そこでもわたしたちの間にある。ただし、その交わりには、わたしたちが今享受していない永遠の栄光が伴う。」(教義と聖約 130:1-2)

この聖句は、わたしたちが自信をもって自分の家族の関係の中に天の標準を取り入れることを目標にできるということを示唆しています。わたしたちは自分の家族の生者と死者の両者に十分な関心を払い、天においてわたしたちをつなぐ神権の儀式を家族に提供するために、自分ができる全てのことを行うことができます。

年齢を問わず、皆さんの多くがそれを行っています。皆さんは、皆さんを一つに結び固めることのできる儀式をまだ受けていない先祖の名前を探してきました。

皆さんのほとんどに、神権の力により家族として結び固められていない生者の親族がいます。多くの人に、神権の儀式を受けていながら、神と交わした聖約を守っていない生者の親族がいます。皆さんが信仰をもってその全ての親族に手を差し伸べる助けができるように、神は皆さんを祝福してくださるでしょう。人々を主のもとに導くために出かけて行く弟子たちに、主が与えておられる約束があります。

「そして、あなたがたを受け入れる者がだれであろうと、わたしもそこにいるであろう。わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊みたまはあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」(教義と聖約 84:88)

わたしは毎日、オフィスの窓から、美しい花と噴水の間で写真撮影を行う花嫁と花婿の姿を見ます。写真を撮る人が二人の写真撮っている間、花婿はその腕に花嫁を抱き上げ、ふらつきながらも2、3歩くらいは歩いているということがよくあります。わたしはその様子を見るたびに、自分が知っている何組かの夫婦のことを考えます。それは、やがて





——時には結婚式の日の後間もなく  
——人生で困難に直面し、さまざまな  
点で互いに支え合わなければならな  
かった夫婦です。失業することがあ  
るかもしれません。大きな問題を抱え  
た子供が生まれるかもしれません。  
病気になるかもしれません。そのよう  
な場合、他の人々からしてもらいたい

と思うように相手に行ってきた習慣  
—— そうするのがもっと容易だったと  
きのことですが —— それは、考えて  
いた以上の強さを必要とするそのよう  
な試練の時期に、わたしたちを英雄に  
することでしょう。

わたしたちが神の前に持って行ける  
関係があるのは、家族のおかげです。

わたしたちはつまずかせたり、つまず  
いたりしないようにしなければなり  
ません。わたしたちはすぐに、完全に  
赦す<sup>ゆる</sup>と決心することができます。自分  
よりも他の人々の幸せを求めるように  
努めることができます。優しい言葉を  
掛けることができます。わたしたちは  
これらのことを全て行おうとするなら、  
家族と自分の生活に聖霊を招くことで  
しょう。

わたしは皆さんに断言します。主の  
助けと悔い改めの心があれば、わたし  
たちは、永遠の世でそうありたいと  
思うような生活を現世で垣間見ること  
ができるのです。天の御父はわたし  
たちを愛しておられます。ともに住む  
ために戻って来てほしいと思っておら  
れます。救い主は、御自分の贖罪<sup>しよくざい</sup>の  
力により、わたしたちの心が変わる  
ことを可能にされます。聖なる神殿に  
参入し、その後を守る聖約を交わし、  
やがて日の栄えの栄光のうちに永遠に  
家族として住むために、わたしたちは  
変わる必要があります。そして、ふる  
さとに帰るのです。■

### このメッセージから教える

**永**遠の家族の教義を分かち合うときに、十二使徒定員会の  
リチャード・G・スコット長老が述べた次の言葉を検討  
してください。「家族を強めるように常に努力してください。  
家族が神殿で結び固められることが重要だという永遠の視野  
をもって教えてください。……神殿の結び固めの儀式につい  
て永遠の視野を持つとき、皆さんは地上に神の王国を築く助け  
をするようになるでしょう。」（「わたしは手本を示したのだ」  
『リアホナ』2014年5月号, 34参照）あなたが教える人たち

が神殿で結び固めを受けることの大切さについて永遠の視野  
を持てるように、どのような助けができるでしょうか。まだ  
結び固めを受けていない人たちに、その儀式を受ける備えをす  
る手順について話し合ってもらいます。既に結び固めを受けて  
いる人たちには、どうすれば永遠の家族についてのビジョンを  
持ち続け、互いに関係をより良いものにする取り組みができる  
か話し合ってもらいます。

## 永遠に家族に結ばれる

ローラ・バートン

**わ**たしが3歳で養子になったとき、生みの母は、わたしが12歳になってから教会の儀式を行うことに義父母が同意するなら養子縁組の最終手続きをしてもよいと言いました。わたしが大きくなってから自分で選べるようにする必要があると思ったからです。しかし、それは本当に待ち遠しいことでした。

実際、友達が多くが8歳になったときにバプテスマを受けるのを見ることはつらいことでした。しかし、それ以上につらかったのは、12歳になるまで養父母や5人の兄と姉と結び固めを受けることができないのが分かっていたことです。何かが起こって彼らに結び固められなくなるのではないかと、とても心配しました。

12歳の誕生日が近づいたとき、わたしたちはわたしのバプテスマと家族への結び固めの計画を立て始めました。どこの神殿で結び固めを受けたいか、両親はわたしに選ばせてくれました。わたしはカリフォルニア州サンディエゴ神殿が一番美しいと常々思っていました。それで、結び固めのためにカリフォルニアまで車で行くことに家族全員が同意してくれました。

わたしは両親やきょうだいと永遠の家族になるのを待ち切れませんでした。結び固めのとき、わたしは

言葉で表せないほどとても強く御霊を感じました。ようやく自分の家族に結び固められたことで、わたしの不安な気持ちは慰めと平安に変わりました。わたしは今、自分が永遠に家族と結ばれていることを知っています。

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。



## 子ども



### しんでんを 見つめながら

**わ**たしたちには しんけんを通して しんでんに行つて えいえんに かぞくとして むすびかためられる きかいがあると アイリング管長は せつめいしています。あなたの すきな しんでんの しゃしんを みつけたり、絵を かいたりして、毎日 見える ところに かざりましょう。いつか しんでんに行く ために そなえる ほうほうを 書き出して みましょう。





祈りをもってこの資料を学び、何を伝えるべきか分かるよう祈り求めてください。  
救い主の神聖な特質が理解できるようになると、救い主を信じるあなたの信仰はどれほど増し、  
家庭訪問を通してあなたが見守っている姉妹にどれほど祝福が注がれるでしょうか。  
詳しくは [www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn](http://www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn) をご覧ください。

## イエス・キリストの 神聖な特質 ——徳

本記事は、救い主の神聖な特質に焦点を当てた家庭訪問メッセージシリーズの一環です。

「**絶**えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。そうするとき、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴るのである（教義と聖約 121:45）。」

徳とは何ですか。ジェームズ・E・ファウスト管長（1920 - 2007年）はこのように言っています。「完全な意味での徳には、人格を形成するうえで助けになるあらゆる義の特質が含まれます。」<sup>1</sup> ゴードン・B・ヒンクレイ大管長（1910 - 2008年）はこう付け加えています。「神の愛は、全ての徳、善、人格の力……の源です。」<sup>2</sup>

女性と徳の関係について、十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老はこう言っています。「女性はある美德を持ってこの世に生まれて来ます。その神聖な賜物によって、女性は信仰、勇気、共感、優雅さといった特質を、人間関係にも文化にも少しずつ注ぎ込むことに熟達しています。……」

姉妹の皆さん、皆さんがどんな人たちの中にしようとも、皆さんの生

### 考えてみましょう

徳はわたしたちにどのように能力を与え、強めてくれるでしょうか。



活で常に一番に置かなければならないのは、皆さんの徳の力の源である神、すなわち天の御父との関係です。イエスの力は御父の御心<sup>みこころ</sup>にひたすら思いを向けたことからもたらされたものだとすることを忘れないでください。……御父と御子にとってそのような弟子となれるよう努めましょう。そうすれば、皆さんの影響力が衰えることは決してないのです。」<sup>3</sup>

### その他の聖句

詩篇 24:3 - 5; ペリピ 4:8; 2ペテロ 1:3 - 5; アルマ 31:5; 教義と聖約 38:23 - 24

#### 注

1. ジェームズ・E・ファウスト、「義にかなった神の娘の持つ徳」『リアホナ』2003年5月号、108
2. ゴードン・B・ヒンクレイ大管長、「Excerpts from Recent Addresses of President Gordon B. Hinckley,」*Ensign*, 1996年4月号、73
3. D・トッド・クリストファーソン「道徳に及ぼす女性の力」『リアホナ』2013年11月号、29, 31
4. 徳には力があります（マルコ 5:30 参照）
5. 『聖句ガイド』には、「神権」とは「神が人の救いのためにあらゆることを行うよう授けられた権能と力」である、と定義されている（教義と聖約 50:26 - 27）。

信仰・家族・扶助



### 聖文から

今日、信仰に満ちた徳高い女性は、救い主にさらに近づこうとしています。ルカによる福音書第8章には、12年間も癒やされることなく長血をわずらってきた女性についての話が記されています。癒やしていただくとして、彼女が「[キリストの] うしろから近寄ってみ衣のふさにさわったところ、その長血がたちまち止まってしまった。……イエスは言われた、『だれかがわたしにさわった。力（訳注——英語では“virtue”で「徳」の意）がわたしから出て行ったのを感じたのだ。』」<sup>4</sup> この徳高く信仰深い女性は主の前にひれ伏し、「イエスに……さわるとたちまちなおったことを、みんなの前で話した。そこでイエスが女に言われた、『娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。』（ルカ 8:43 - 48; 6:17 - 19も参照）

キリストは、わたしたちが主に近づくことを勇気と信仰を込めて選ぶとき、その徳を通して、<sup>5</sup>癒やし、成し遂げる能力を与え、強め、慰め、励ましてくださいます。

## 愛について学んだこと

ジャニス・テイト

この簡単な奉仕プロジェクトから、天の御父の、子供たちに対する愛について、これほど多くを学べるとは思ってもいませんでした。

それは典型的な奉仕プロジェクトのように思えました。扶助協会の姉妹たちで、町の病院の一時療養センターで聖歌隊の短いプログラムを行うことになっていたのです。患者の中にワードの会員はいませんでした。

到着してから通された小さな部屋では、車椅子に乗ったお年寄りの患者が9人、目の前にいました。患者たちの目はうつろで、無表情でした。蒸し暑かったので、わたしは「早く終わらせよう」と思いました。

わたしは指揮をすることになっていたので、患者に背を向けてプログラムに集中しました。歌い始めると、「お母さん、お母さん」と呼ぶ患者の声

や、手をたたいて騒ぐ様子が聞こえました。居心地が悪かったのですが、あと数分辛抱すれば帰れるのです。

最後の賛美歌「わが主よ、わが神」(『賛美歌』44番)を歌う準備をしながら、わたしたちは患者や医療関係者に一緒に歌うよう呼びかけました。全員を指揮しようと振り返ったそのとき、一人の女性の姿が目に入りました。小さな、しわだらけの白髪の女性で、膝の上は涙でぬれたティッシュペーパーでいっぱいでした。

その女性はわたしを手招きしました。そばに行き、よく聞こえるように顔を近づけると、彼女はわたしの手を取り、全身を震わせて、こうささやきました。「わたしは末日聖徒なの。姉妹たちが来てくれて、本当にうれしいわ。」

わたしは御霊に満たされ、涙を流しながら彼女のそばにひざまずきました。すると彼女は、わたしの気持ちが変わったかのように、弱々しい腕をわたしの背に回して、優しくなでてくれました。みんなが賛美歌を歌い始めても、わたしは最初の歌詞を声に出すことができませんでした。

患者と職員が声を合わせて神の偉大さを歌うと、御霊が部屋にあふれ、

皆、感動で胸がいっぱいになりました。わたしはようやく感情を抑えることができるようになり、歌に加わりました。

喜び、うたうその日に  
主イエスよ、われ受けたまえ  
かしこみ、ぬかずきてわれ  
さやかに、賛美うたわん

プログラムが終わると、扶助協会の姉妹たちは患者や職員と歓談しました。あの白髪の姉妹は、わたしたちが来るまで、知らない人たちに囲まれて寂しい思いをしていたのだと言いました。わたしたちは彼女がそこにいることを知りませんでした。御父は御存じだったのです。

この経験から、そこにいる人々が皆、わたしたちの兄弟姉妹であり、愛と慰めを必要としていること、そしていつか自分も彼らと同じ立場になり得ることに気づかされました。わたしたちが愛にあふれる天の御父の御手に使われたことに感動すると同時に、この奉仕プロジェクトを通して愛について力強い教訓を受けられたことに感謝しました。■

筆者はアメリカ合衆国カリフォルニア州在住です。



### 行動する愛

「忘れ去られている人に目をかけ、落胆している人に希望を与え、苦しんでいる人を助ける慈愛が大いに必要とされています。真の慈愛は、行動する愛です。慈愛は至る所で必要とされています。」

トーマス・S・モンソン大管長  
「愛はいつまでも絶えることがない」  
『リアホナ』2010年11月号、124





# ハチドリの救助

ウィリアム・ホガン

ハチドリの救助から、わたしたちは霊が弱くなっている人々を助ける方法を学びました。

カリフォルニア州の山で行われたガールズキャンプでのことですが、女の子たちと指導者は三角屋根の山荘で夕食が出されるのを待っていました。数人の女の子がテーブルの下に何かがあるのに気づきました。どういうわけかハチドリが山荘に入って来て、出口を見つけられずにいる間に衰弱し、とうとう床に落ちてしまったのです。女の子たちはわたしに、助けてあげてほしいと頼んできました。

ハチドリのくちばしにはクモの巣が絡まり、羽はゆがみ、死にかけているように見えました。わたしはハチドリをそっとカップに入れ、外に持って行きました。自力で回復することを期待してはいましたが、現実的に言って、多分死んでしまうだろうと思っていました。しかし、そっと地面に下ろそうとカップを傾けると、滑り落ちかけたハチドリが小さな爪で縁をつかんだのです。わたしはカップを元に戻しました。ハチドリは目を閉じたまま、縁に止まっています。さて、これからどうすればよいのでしょうか。

一人の指導者がその様子を見て、砂糖水を作って持って来てくれました。わたしはまず、針のような形をしたくちばしからそっとクモの巣を払い落としました。鳥はびくりともしません。それから、わたしは砂糖水に指を浸し、くちばしの先に1滴置きました。鳥がまったく動かないのに、砂糖水は消えてなくなりました。もしかして、くちばしの中に

浸み込んでいったのでしょうか。もう一度指を浸して、くちばしの先に持っていきました。今度は、髪の毛より細い、小さな舌がわたしの指先をなめました。

10分か15分の間、ハチドリは1滴ずつ飲み続けました。その頃になると、他の指導者たちも数人、わたしの周りに集まっていたので、砂糖水をわたしに代わってあげてみるよう勧めました。

すると突然、鳥の目が開き、乱れた羽が一瞬のうちに本来の姿に戻りました。もう2滴ほど飲むと、ハチドリは翼を広げ、ちょっと翼を試すようにしてから、まっすぐ上に飛び上がったのです。

わたしたちの上に一瞬とどまったかと思うと、ものすごいスピードで飛び去りました。

わたしたちはあぜんとして立ち尽くしました。そのとき、鳥が飛び去ったのと同じように、思いがけず、霊的な教訓を悟ったのです。

- あまり活発でない人々に手を差し伸べるとき、努力したところで何も変わらないように見えます。しかし、わたしたちが差し伸べる愛は、動きもしないハチドリのくちばしに浸み込んだ砂糖水のように、確実に隙間から浸み込んで霊の糧を与え、いつの日か成果を

もたらすかもしれないのです。

- わたしたちはときどき、自分の力ではどうしても先に進めず、思いやりといたわりに富んだ助け手が必要になるときがあります。
- 時に人は、罪や依存症というクモの巣に絡めとられ、友人や神権指導者の助けと救い主の力添えがなければ逃れられないことがあります。
- 耐え忍ぶためには定期的な霊の糧が必要です。さもなければ霊の力を失い、邪悪な影響の餌食となってしまいます。

- ハチドリは諦めませんでした。文字どおり、ずっとしがみついていた

のです。それが大きな成果を生んだのです。つらく、時には恐ろしい人生のチャレンジに対処するとき、信仰をもって耐え続けるしかない場合もあります。

新約聖書には、主は1羽のスズメが落ちるのでさえ御存じであると記されています(マタイ10:29-31参照)。今わたしは、主はハチドリが落ちるのでさえ御存じであることを知っています。そして主は、皆さんのことも御存じなのです。■

筆者はアメリカ合衆国カリフォルニア州在住です。







# 家庭で 「キリストのことを 説教」する 方法



「わたしたちは  
キリストのことを話し、キリストのことを喜び、  
キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、  
また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、  
わたしたちの子孫に知らせるために、  
自分たちの預言したことを書き記すのである。」  
(2 ニーファイ 25 : 26)

ダレン・E・シュミット

あ る年の復活祭の頃、妻から一つの提案がありました。救い主の地上における最後の1週間について記された聖典の記録を家族で読もうというのです。そこでわたしたちは、毎晩、寝る前に、新約聖書を読み、それぞれの出来事を描いた短いビデオを子供たちに見せ、何でも聞きたいことがあれば、それについて話し合うことにしました。聖文を読み、話し合う中で、家庭に満ちあふれる御霊にも、また、子供たちから挙がる質問にも驚かされました。

1週間が終わる頃には、救い主に対する感謝と愛の思いが深まりました。主の犠牲について、そして主がわたしたちのためにくださった全ての業を通してもたらされた永遠の結果について、深く考えたからです。わたし自身も心を動かされましたし、妻も靈感を受けたことが分かりました。子供たちも救い主への理解や愛が深まり、お互いにキリストのような態度で接したいという望みが強くなったのが分かりました。

そのとき以来、わたしたちは、自分たちの会話やレッスンで、もっと「キリストのことを話し」、もっと「キリストのことを説教」する方法が他にもあるのではないかと探しました。イエス・キリストを基とすることによって、人生の嵐に立ち向かう大いなる力が与えられるという約束があることを知っていたからです(ヒラマン5:12 参照)。



### 祈りについて教える場合

例えば、祈りの大切さについて教える場合、「常に祈〔る〕」よう教えている教義と聖約 10：5 の言葉や、あるいは「悪霊は祈るようには人に教えず、かえって祈ってはならないと人に教える」というニーファイの勧告を使ってもよいでしょう（2 ニーファイ 32：8）。こうした聖句は祈りの教義について力強く教えています。話し合うときには、例えば、「救い主はどのように祈られただろうか」「救い主の祈りはどのようなものだったかしら」などのように尋ねることができます。小さな子供がいる場合は、「救い主はどんなふうにお祈りされたと思う？」と尋ねてもよいでしょう。

### 救い主に焦点を当てて教える

わたしたちは幾つか発見しましたが、その一つは、救い主の模範や教えは、家族の話し合いや交わりに取り入れるときに、はるかに大きな力と意味を持つということです。救い主は御自身のたとえでこう教えておられます。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。」（ヨハネ 15：5）このたとえをわたしたちの教え方に当てはめるならば、福音の原則を教えるときには、預言者ジョセフ・スミスが断言しているとおり、イエス・キリストの贖いと無関係の概念としてではなく、贖いに付随するものとして教えるということです。<sup>1</sup> そうすることで、救い主を真のぶどうの木から摘み取った単なる葉としてではなく、福音の原則の中心に据えて教えることができるのです。

救い主を教えの中心に置くならば、養いと力、そして成長が約束されます。この成長には枝が実を結ぶこと、言い換えれば、わたしたちの話し合いやレッスンが、より大きな改心をもたらす力と長期に及ぶ影響力を持つことも含まれます。そのためわたしたちが見つけた方法の一つ、それは福音の原則を教えた後で子供たちに「イエス様はこの原則や教えをどのように実践されたかしら？」「このことについて主はどのようなことを言ったり、教えたりされたでしょうか？」といった質問をする方法です。

しばらく時間を取って、心に浮かんだ聖典の記述について考え、自分だったらこの質問にどのように答えるか考えてみましょう。わたしの心にすぐ思い浮かぶのは、救い主がアメリカ大陸を訪れられたときの次の記録です。「〔イエスは〕御父に祈られた。イエスが祈られた事柄を書き記すことはできない……。……わたしたちはイエスが御父に話されるのを見聞きしたが、それは目がまだ見たこともなく、耳がまだ聞いたこともないほど、大いなる驚くべきことであった。」（3 ニーファイ 17：15 - 16）

その記録の後半では、人々が主に倣って祈ろうとしたこと、またその結果、次のような祈りになったことが分かります。「〔彼らは〕言葉数を多くしたのではない。祈るべき事柄が彼らに示され、また彼らには、願うべき事柄がいっぱいあったからである。」（3 ニーファイ 19：24、強調付加）この時点で、子供たちに、祈りたいという望みでいっぱいになったときの経験を話してもらってもよいですし、自分が祈っていて、祈るべき言葉が示されたときの経験を話してもよいでしょう。それから、救い主が教えられたように、こうして祈るべき事柄が示されたときに、祈りがどれほど違ったものになるか、証してもよいでしょう。

子供たちが、こうした聖句とあなたの証や人々の証に見られる祈りの原則に基づいて行動した場合に、子供たちにどの



ような影響を及ぼすことができるか、考えてください。また、そうするときに、子供たちが御霊を感じ認識する力、召しを尊んで大いなるものとする力、神権の祝福をもたらす力、そして将来、「祈るように人に教えてくださる」同じ御霊に導かれて彼ら自身の子供を育てる力がどのように高められるか考えてください（2 ニーファイ 32：8）。

教える際に救い主の模範や教えを使わなくても、祈りについて実りある話し合いをすることはできますが、救い主の模範と教えに触れることで、その深みと力も増します。

### 福音を中心とする絵画や写真

よりキリスト中心の家庭を築くためにわたしたちが努力してきたことが他にもあります。それは、キリストや神殿の絵や写真、また福音に関連するさまざまなものを、皆が見やすい場所、つまり家族にとって本当に大切なものは何かが子供たちに分かる場所に置くということです。

何年か前のこと、子供たちと一緒に<sup>しゅうぶん</sup>什分の一の面接を受けたとき、ビショップが10歳になる息子に、救い主の小さな絵を1枚持ち帰って、家のどこに貼るか決めてほしいと言いました。主に従うという決意をいつも家族が思い出せる場所に貼るよう勧めたのです。帰宅すると、息子は「一番皆の目に入る」場所だと言って、その絵を玄関のドアに貼りました。この絵はわたしたち全員に大きな祝福をもたらし、毎日、見るたびに、ささやかながら力強く、イエス・キリストに従う約束を思い起こさせてくれます。

絵を家のどこに貼るかが問題なのではありません。どこに貼ろうと、壁の絵とあなたが子供たちに送るメッセージに注意が行くのなら、それはやってみるだけの価値はあるということです。あなたの家に飾られている絵や写真は、キリストに従うというあなたの決意を反映しているでしょうか。

### キリストについて教える他の方法

子供から、イエスは漫画に出てくるスーパーヒーローよりも強いのかと尋ねられたとき、確かに、1度ならず笑ったことがあります。しかし、わたしは子供の疑問が、いつも、救い主はなぜスーパーヒーローよりもすごいのか、といったすばらしい話し合いのきっかけとなることに気づきました。こうした日常的な会話以外にも、家庭をもっとキリスト中心にするためのアイデアを以下に幾つか紹介しますので、考えてみてください。

- モルモン書を使って、子供にイエス・キリストの<sup>しよくざい</sup>贖罪について教える。贖罪あるいは贖うという言葉は、英語のモルモン書に39回出てきます。（訳注——日本語のモルモン書では「贖罪」だけで36回、「贖う」は23回出てきます。）
- モルモンメッセージビデオ、聖書ビデオなど、イエス・キリストについて教えてくれる教会のメディアを使って、家庭の夕べのレッスンや聖文研究の質を高める。
- 救い主に関する賛美歌と一緒に覚え、歌い、その教えと意味について話し合う。
- 預言者はイエス・キリストの力強い証人であるということ強調する方法を見つける。
- 救い主との関係を改善しようと自ら常に努力する。

わたしはこれまで入念に研究し、熱心に祈ることによって、分かるようになったことがあります。それは、イエス・キリストは生きておられるということ、そしてその偉大な<sup>たまもの</sup>贖いは現実存在するものであり、わたしたちの人生、また愛する人たちの人生に意味と目的を与えてくれる、さらにはわたしたちの家族が永遠にわたって自分の家族になるということとてつもなく大きく輝かしい希望を与えてくれるということです。わたしたち一人一人がキリストを中心とする家庭を築くことの大切さに気づき、「人が救われるのはただキリストにより、キリストを通じてだけであり、決してほかの方法や手段はないこと」を理解することができますように（アルマ 38：9）。■  
筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

注

1.『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』49 - 50 参照



# パルマイラへの道



写真 ジョージ・アンダーソン、教会歴史博物館の厚意により掲載

最初の示現の地であり、金版が眠っていた地であるパルマイラ。  
このパルマイラへの道は、ジョセフ・スミスとその家族にとって  
甘美なものでもなければ、光明を与えるものでもありませんでした。



## マシュー・S・ホランド

これは、預言者ジョセフ・スミスに関する2回シリーズの前半部分です。後半の「モルモン書の出現」は『リアホナ』の来月号に掲載される予定です。

**確**かなことが一つあります。それは、皆さんが専任宣教師であるかどうかにかかわらず、全ての末日聖徒は主イエス・キリストのメッセージを「全世界に」（マタイ24：14）携えて行くように召されているということです。わたしたちは主の御名により、主の福音の純粋な原則を分かち合い、教会を組織する働きのために召されています。そうするために、わたしたちが忘れてはならないこともあります。それは、ジョセフ・スミスが、地上にこの純粋な原則を回復し、主の教会を組織するために神の御手に使われる者であった<sup>あかし</sup>ということ、<sup>み</sup>証する必要があるということです。

極めて重大なこの時期にあって、次のように自問してみるの<sup>は</sup>賢明なことであると思います。わたしは、明らかな確信をもって、声高らかに、「千八百二十年の早春、美しい晴れた日の朝」<sup>1</sup>、ジョセフ・スミスが歩いて人里離れた森の中に入り、ひざまずき、祈り、そしてその後の世界がすっかり変わってしまったことを、進み出て宣言する用意ができてい<sup>ら</sup>だ<sup>らう</sup>か、と。皆さんが召されているように、神の僕でありたいと望むなら、そのようにする備えができていなければなりません。

今ここで、預言者ジョセフ・スミスの生涯について学ぶ者になろうと決意してください。救い主御自身の生涯を除いて、ジョセフ・スミスほど、力と知恵のある人生を送った人は他にいません。わたしは皆さんに約束します。皆さんがジョセフの生涯の一部始終について、熱心に、祈りの心で、深く知ろうとするとき、ジョセフに対する愛と称賛の思いは深まり、特に生活や奉仕をするうえで困難に遭うときには、慰めと励ましを見いだすことでしょう。また、この世の証拠を挙げて、ジョセフは自らが主張するような人物であることを立証できない、と言<sup>い</sup>張<sup>る</sup>現代の評論家たちのあざけりに対抗できるだけの理解力が備わっていることでしょう。そのために、この類いまれな人物についてその一端をのぞいてみましょう。

## 苦痛に満ちた道

最初の示現の朝は、賛美歌の「麗しき朝よ」<sup>2</sup>の中で歌われているとおり、麗しく、<sup>ひ</sup>陽の輝く朝だったことは、どこから考えても信じてよさそうです。しかし、そのような美しい場面を想像する一方で、わたしたちはその朝に至るまでの出来事についても目を向けておく必要があります。パルマイラは、確かにあの神聖で類をみない瞬間が訪れた地理上





の場所ではあるものの、そこに至る道は、この少年預言者とその家族にとって甘美なものでもなければ、光明を与えるものでもありませんでした。

預言者の両親、ジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マック・スミスは、1796年アメリカ合衆国バーモント州タンブリッジで結婚しました。その後の6年間は農業でかなりの成功を取めたため、スミス家族は近くのランドルフへ引っ越し、小売業で生計を立てることにしました。<sup>3</sup>

ボストンに拠点を置く融資者の支援を受け、ジョセフ・シニアの店は品揃えもよく、すぐに新しい顧客の開拓に成功しました。先払いではなく、農作業を終えて収穫したときに支払う約束の後払いだったことも成功の一因でしょう。彼は融資者に返済するために約束の支払いを待っている間、新しい投資話に飛びつきました。

当時、中国の市場では、砂糖漬けの朝鮮ニンジンが流行になっていました。ジョセフ・シニアは、朝鮮ニンジンを集荷して船積の準備をした対価として、ある仲介業者から現金で3,000ドルを支払ってもらうという提示を受けていました。しかし、ジョセフ・シニアは、もう少しリスクが高くても、もっともうかる可能性のある方法を取ることにしました。自分で商品をニューヨークへ持って行き、輸送船の船長と契約をして、中国で委託販売をしてもらおうと考えたのです。仲介業者を省くことで、4,500ドルもの大金が手に入る勘定でした。当時としてはばく大なお金です。<sup>4</sup>

ところが、不運であったのか、悪巧みであったのか、ジョセフ・シニアの積荷と一緒に、この同じ船に例の仲介業者の息子が同乗することになったのです。ジョセフ・シニアが取引を断ったあの仲介業者の息子です。その状況を利用して、この息子はスミスの朝鮮ニンジンを中国で「高値で」売却し、利益を独り

バーモントで3年にわたって収穫に失敗したジョセフ・スミス・シニアは、300マイル(482キロ)南西にあるニューヨーク州北部のパルマイラの町へ家族と一緒に引っ越しという運命の一步を歩み始めました。

占めにしました。そして、この取引は失敗だったという偽りの情報を流し、売却は失敗で利益は1箱のお茶にしかならなかったと報告したのです。<sup>5</sup>

ところが、こうした詐欺行為が明るみに出てくる一方で、商品を大量に購入するために借り入れた資金の返済期日がスミス家の店に迫っていました。返済を迫る債権者を前に、スミス家の人々はどうにかしてお金を工面するしかありませんでした。この借金の返済に充てるため、ルーシーは何年もためていた結婚祝い金の1,000ドルを差し出し、ジョセフ・シニアはタンブリッジにある家族の農場を800ドルで売却することにしました。<sup>6</sup> この農場は、厳しいことの多い、初期の辺境地にあつて、少なくともある程度の経済的な安定と長期の物質的な保証を担保して



くれるはずのものだったのです。こうしてお金も土地も失ったスミス家は、14年間に8回の引っ越しを余儀なくされることになります。いつも、家族を養う道を求めての引っ越しでした。

少なくとも、この一連の引っ越しのうちの1回は、1813年に大流行したチフスのために医療費がかさみ、経済的に困難になったことが引き金となった引っ越しです。スミス家の子供たち全員が、猛威を振るったこのチフスに感染したのです。熱が引いた後も、ジョセフの肩には数週間にわたってひどい痛みが残りました。地元の医者は、その痛みは捻挫によるものだと誤診しました。2週間後、その痛みが耐えられないほど強くなってきました。その医者が再度往診すると、ジョセフが長期間にわたって熱を出していたのが原因の感染症だということが分かったのです。<sup>7</sup>

炎症が起きている患部からうみを出すと、それが1リットルにも及ぶような状態でしたが、手当ては完全ではありませんで



ジョセフ・スミスがバルマイラに到着したとき、  
主は、計り知れない価値を持つ宝が眠る場所へ、  
御自分が予任された預言者を導かれたのでした。



した。ジョセフの左の下肢が新たに感染してしまったのです。その手術のために、外科医が呼ばれました。外科医は、ひざから足首まで20センチほど切開したので、痛みは少し和らぎました。しかし、不運なことに、感染は骨にまで及んでいたのです。<sup>8</sup>

この段階で、家族はダートマス医科大学の最も権威ある医師に、医学上の最新のアドバイスを求めました。ルーシーは、最も理にかなった、一般的な方法である下肢切断という手術法は取らないでほしいと言い張りました。その代わりに、スミス家族は新しく苦痛の伴う手術法を提案します。成功の保証のない手術法です。その手術では、医師はジョセフの足を切開し、骨の両側にそれぞれ二つの穴を開けることになります。そして、感染している部位を全て取り除くために、感染した骨から炎症を

それは、ジョセフが血の流れ落ちるベッドに横たわり、「まるで死体のように青白く、大粒の汗が……顔を滴り落ち、その一方で、この上ない激痛がどの表情にも表れている」光景でした。<sup>11</sup> 幸いなことに、この手術自体は成功したのですが、ジョセフはその後の3年間を松葉づえを使って過ごすことになります。

このつらい経験をした家族は、バーモント州ノーウィッチで新しい生活を始めます。ここでなら、今すぐ必要としている安定や豊かさをようやく得られるだろうという希望を持っていました。しかし、その希望は再び打ち砕かれました。借りた土地で農業



起こしている患部を大きく3か所、取り除かなければならないのです。<sup>9</sup>

しかもこれを皆、現代の全身麻酔の恩恵を受けない状態で施術しなければなりません。その結果、家族は、ジョセフにアルコールを飲ませるか、それとも、ベッドに拘束して、細かい手術が進行している間は痛みのせいで体を動かすことのないようにするか、決断を迫られました。ところがジョセフは、年端も行かぬ7歳という年齢にもかかわらず、その選択肢を両方とも拒んだのです。ジョセフは、それに代わって、二つの提案をします。一つは、父親がしっかりと自分を抱きかかえてくれること、そしてもう一つは、母親に部屋を出て行ってもらうことでした。<sup>10</sup>

ジョセフの叫び声あまりにも大きかったため、母親は部屋の外にいたことができず、2度も部屋の中に入ったのですが、その度に、ジョセフから出て行ってほしいと嘆願されます。ルーシーが目にした光景は忘れ難い記憶となって残りました。

で成功させようと意気込んだ最初の年は不作でした。2年目も不作でした。3年目の1816年、ジョセフ・スミス・シニアは、もう一度農業にかけてみようと思案しました。物事はもうよくなるはずだと信じたのです。<sup>12</sup>

1815年、地球の反対側では、インドネシアのタンボラ山が大爆発を起こし、大気中に何トンもの灰をまき散らしていたため、通常の天気サイクルが崩れていました。1816年の6月から8月にかけて、後に「夏なき年」と呼ばれたこの時期に、ニューイングランド地方は4度にわたって霜に襲われ、そのために夏の収穫は壊滅的な被害を受けました。<sup>13</sup>

こうした飢餓状態の中で、数千人もの人々がバーモントから出て行きました。このとき、ジョセフ・スミス・シニアは実に運命的な一歩を踏み出すことになります。彼は、成人してからこれまで慣れ親しんできた家族や友人や農地から、およそ半径20マイル(32キロ)以上は離れようと決意し、300マイル(482キロ)南西

にあるニューヨーク州北部のパルマイラという町に向かったのです。そこは土地が豊かで、長期にわたる貸付も簡単に受けられるという話が伝わっていました。必要に迫られたジョセフ・シニアは、先に出発しました。後に残されたルーシーと8人の子供たちは、家財道具を積み込んで、後を追うことになりました。<sup>14</sup>

ルーシーと健気な幼い子供たちの一団が、所有するあらゆるものをそりに積み込み、その後荷馬車に積み込んだのは冬のことでした。何人かの債権者たちに支払いを済ませると、旅をするためにルーシーの手元に残されたお金はほとんどありませんでした。この旅が終わるまでに、彼女は衣服や薬を手放しました。宿の支払いに充てるためです。彼女の回想録によれば、パルマイラに着いたとき、「現金はわずか2セント」しかありませんでした。<sup>15</sup>

旅の途中、そりの御者として雇われた男は、ゲーツ家族の二人のかわいい娘を座らせるために、まだ年若いジョセフを無

泣きながらジョセフ・スミス・シニアの腕の中に倒れ込んだのでした。

しかしながら、恐らくこの旅の中で最も心を痛めた出来事を、家族の旅に関する最初の記録に後日ジョセフが書き加えた後書きの中に見いだすことができますが、この部分はあまり注目されていませんでした。「ユーティカから向かう途中、列の最後のそりに乗るように言われました。しかし、そのそりが来たとき、ゲーツ家の息子の一人である御者に殴り倒され、血を流したまま道端に捨てられました。通りかかった一人の旅人がわたしを拾い上げ、パルマイラの町まで運んでくれたのです。」<sup>18</sup> この出来事の重大さを見過ごしてはなりません。

### 計り知れない価値を持つ宝

パルマイラの町の中心部から南へちょうど2マイル(3キロ)行った所に、木々の生い茂る森があります。この森はやがて、人類の歴史上、最も壮大な示現の一つを受ける場所となります。そこから3マイル(5キロ)離れた所にクモラの丘があり、そこに当時まだ知られていなかった金版が埋められていました。

ジョセフがパルマイラに到着したとき、主は、計り知れない価値を持つ宝が眠る場所へ、御自分が予任された預言者を導かれたのでした。この宝は、何世紀にもわたって霊的な暗黒と混乱が世界を覆った後に、諸天が再び開かれたことのあるしとなりました。この宝は、イエスの教導の業が、恐らく当時のキリスト教の教会が知り得る以上に、教義の面でも地理的な面でも、非常に広範囲に及んでいたことを示すものとなりました。この宝は、神が奇跡的な方法で、時代を超え、言語を超え、大陸を超えて、人間の事柄に積極的に関わってこられたことを確信させるものとなりました。そして、この宝には、非常に純粋で力強い教えが秘められており、その教えを心の中に深く植え付けるなら、自分自身が変わることができ、また、望みうる限りの、究極の、比類のない祝宴となって、実に豊かな味わいをもたらしてくれるはずで

す。死すべき人の目には、そのような人物をそのような瞬間に立ち合わせるといふのなら、それよりもっとふさわしい道、はるかに容易で効率的な道、称賛に値する道があったに違いないと映るかもしれません。この少年がこの時期にこの町にやって来た結果として、今まさに世を震撼させるような出来事が起ころうとしていることを考えると、1,000年以上も前にきわめて慎重に金版を隠された主は、もっとまっすぐで、もっと楽で、もっと歓迎される到着の道を用意することがおできにならなかったのだろうかと思ってしまう。

確かに、主にとってそれは可能でした。しかし、そうはされなかったのです。

ジョセフが幼い頃、預言者として油を注がれるような顕著な出来事はありませんでした(サムエル上16:11-13参照)。



理やりそりから降ろしました。その家族も同じ方向に旅をしている途中だったのです。まだ完全に治っていなかったジョセフは、「数日にわたって雪の中を1日40マイル〔64キロ〕の道のりを」足を引きずりながら歩かざるを得なくなったのです。ジョセフはこの経験を「拷問にも匹敵するような耐え難い疲労と苦痛を経験した」と回想しています。<sup>16</sup>

ジョセフが敬愛する兄のハイラムとアルビンは、ジョセフも乗せてくれるよう御者に頼むのですが、男はむちの手元側で激しく殴ったので、二人は地面に倒れ込んでしまいました。ユーティカの町で、ルーシーにいいよ現金の持ち合わせがなくなったことがはっきりすると、この男は家族を見捨てることにしました。しかし、荷馬車を盗もうという計画がとん挫したために、家族の持ち物を地面に投げ捨てて行ったのです。<sup>17</sup> 家族はどうか旅を続け、ようやく全員が無事にパルマイラに到着したときは、



バルマイラから南へ少し行った所に、木々の生い茂る森があります。  
この森はやがて、人類の歴史上、  
最も壮大な示現の一つを受ける場所となります。



約束の地へ行くように指し示す夢を見ることもありませんでした(1ニーファイ5:4-5参照)。途中、家族が道を踏み外さないように助けてくれる、不思議なリアホナもありませんでした(1ニーファイ16:10;アルマ37:38参照)。そして、もちろん、勝利の帰還を沿道の大勢の群衆が華々しく祝ってくれる、派手で組織だったパレードのためにオープンカーが準備されることもありませんでした。

むしろ、ジョセフとその家族にとって、不運と病気、愚かな判断と自然災害、激痛と無慈悲な不法行為、絶えることのない不安、そして容赦のない貧困といったものが待ち受ける、ひどく曲がりくねった悲しみの道だったのです。スミス家族がいつでも救い難いほどの悲惨な生活を続けていたということを暗に言っているわけではありません。そうではありませんでした。そうは言っても、バルマイラへの道は、まっすぐな道でも、繁栄への道でも、広く知られた道でもありませんでした。まだ不自由な片足を引きずり、血を流しながら、預言者は文字どおり、運命的な唯一の目的地に向かって、名も知れぬ旅人の手で運ばれて行かなければならなかったのです。

恐らく、ジョセフの生涯とモルモン書の出現に関して、これが最初の学びの機会だったことを忘れないでください。こうした失敗や災難、またひどい妨害があったにもかかわらず、そして多くの場合、まさにこうしたことがあったがゆえに、ジョセフ・スミスは、自らの使命を果たすために、自分が行く必要のある場所に正確にたどり着いたのです。ですから、もし今、あるいは将来のある日に、周囲を見回して、あなたが仕事を失ったばかりだというのに、恐らくあなたよりも働きの悪い知人が仕事で成功を取めているのを見たとしても、あるいは、大切な奉仕の召しが来そうなときに重い病気で伏していたとしても、あるいは目立つ地位の召しが誰か他の人のところへ行ったとしても、あるいは伝道中に同僚の方が自分よりも速く言語を学んでいると思えたとしても、あるいは善意で行ったことがどういふわけかワードの仲間の会員や隣人や求道者に災難を引き起こしたとしても、あるいは、ふるさとからの便りで、自分ではどうすることもできない経済

的な問題が生じたことや、致命的な惨事に見舞われたといったことを知ったとしても、あるいはまた、毎日毎日、本当に人の幸せのために行っているはずの福音のドラマの中で、存在感も感動も与えられない裏方のような役を演じているだけではないかと感じたとしても、このことだけは知っていてください。このように思える多くの出来事は、ジョセフ・スミス自身が地上で最も並外れたことが演じられる舞台へと導かれていく瞬間に起きた定めだったということです。それは、今から2,000年近く前に、ゴルゴタや園の墓で起こったこと以降では、最も重大なことだったのです。

皆さんはこう言うでしょう。「でも、わたしの人生や地上での使命は預言者ジョセフのものとは全く異なっています。」

多分そうでしょう。しかし、皆さんの人生も神にとっては間違いなく大切なものですし、皆さんの永遠の可能性も、皆さんが伝道中に出会うあらゆる人々の可能性も、預言者ジョセフ自身の可能性と同じように、壮大で意味があるということも真実なのです。ですから、わたしたちの愛するジョセフと同じように、皆さんの人生全体が、あるいはとりわけ伝道活動が、苦痛に満ち、混乱し、退屈であったとしても、決してあきらめたり、落ち込んだり、投げ出したりしてはならないのです。むしろ、パウロが教えているように、「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを」皆さんは見守る必要があります(ローマ8:28, 強調付加)。

若きジョセフ・スミスにそうされたように、神は、皆さんが想像する以上に、栄光ある存在にしようとして、皆さんを日々磨き上げ、導いておられるのです。■

2014年2月15日、ユタ州プロボの宣教師訓練センターで行われた“The Making of the Book of Mormon, Joseph Smith, and You”(「ジョセフ・スミスとあなたがたどるモルモン書への道」)と題するデイポーショナルの講演から。マシュー・S・ホランドはユタバレー大学学長。

#### 注

1. ジョセフ・スミス——歴史1:14
2. 『賛美歌』18番
3. ルーシー・マック・スミス, *Biographical Sketches of Joseph Smith, the Prophet, and His Progenitors for Many Generations* (1853年), 37, 45参照。スミス家族のバルマイラへの引越に伴う出来事について、簡潔な概要は、リチャード・ライマン・ブッシュマン, *Joseph Smith: Rough Stone Rolling* (2005年), 17-29参照
4. ルーシー・マック・スミス, *Biographical Sketches*, 49参照
5. ルーシー・マック・スミス, *Biographical Sketches*, 49-50参照
6. ルーシー・マック・スミス, *Biographical Sketches*, 51参照
7. ルーシー・マック・スミス, *Biographical Sketches*, 60, 62参照
8. ルーシー・マック・スミス, *Biographical Sketches*, 62-63参照
9. リロイ・S・ワースリン, “Joseph Smith’s Boyhood Operation: An 1813 Surgical Success,” *BYU Studies* 21, 第2巻 (1981年), 146-154参照
10. ルーシー・マック・スミス, *Biographical Sketches*, 64参照
11. ルーシー・マック・スミス, *Biographical Sketches*, 65参照
12. ルーシー・マック・スミス, *Biographical Sketches*, 66参照
13. 『時満ちる時代の教会歴史』宗教341-343, 23参照
14. ルーシー・マック・スミス, *Biographical Sketches*, 67参照
15. ルーシー・マック・スミス, *Biographical Sketches*, 68, 70参照
16. ジョセフ・スミス, *The Papers of Joseph Smith*, デイーン・C・ジェシー編, 全2巻, (1989年), 第1巻, 268で引用
17. *The Papers of Joseph Smith*, 第1巻, 268-269参照
18. ジョセフ・スミス, *The Papers of Joseph Smith*, 第1巻, 268-69で引用



救い

を求めて



## コニー・ゴールドディング

**20** 10年8月5日、大規模な落盤で、チリの鉱山作業員が33人、鉱山の岩の下に閉じ込められました。彼らが動けるのは、地下2,300フィート（700m）の安全な狭い空間と、崩落現場の下の坑道の中だけでした。

厳しい状況でした。頭上には動かぬ岩が800メートルにもわたって彼らを家や家族から隔てていました。しかも、食料も水もほんの少ししかありません。作業用の機械と知識はありましたが、坑内が不安定なため、自力でそこから脱出することはできませんでした。見つけて救い出してもらう以外に、助かるチャンスはなかったのです。

このような状況にもかかわらず、彼らは希望を持つことを選びました。規律を作って食べ物や水の消費を制限し、助けを待ったのです。地上にいる人たちが自分たちを救うためにできる限りのことをしていると彼らは信じました。それでも、暗闇の中で待ちながらその希望を持ち続けることは、大変だったに違いありません。何日かたち、そして何週間かが過ぎていきました。注意深く制限して配給していた食料も、底をつきました。

わたしは人生で大崩落を経験しました。かわいくてユーモアがあり、元気いっぱいの子の8歳の息子が、わたしの目の前で車にひかれて亡くなったのです。道路に血が広がり、抱きかかえたわたしの腕の中で、息子の霊は体を抜けて、天の家に帰って行きました。どうか息子を連れて行かないで、と天の御父に嘆願しましたが、息子の命はそこまででした。

わたしは暗闇の中に取り残され、悲しみにうちひしがれました。疲れ果て、心休まることはありませんでした。なぜ人は死ななければならないのかと考えると、何も分からなくなってしまうのです。心引き裂かれそうな、という表現が単なる表現でなく、本当に肉体の痛みを伴うことをわたしは知りました。心があったところは真っ暗な穴になってしまっていて、ずきずきと痛むのです。

この状態から立ち直るために、強くなければならぬと思いました。もっとつらい思いを経験した人はたくさんいるのですから。しかし、動かぬ岩があって身動きが取れなかったあの鉱山作業員のように、わたしは、自分ではこの悲しみという重荷を取り除くことができませんでした。

**わたしたちはチリの鉱山の落盤で  
地下に閉じ込められた33人のように、  
試練や欠点のために身動きが取れないと  
感じるがあります。**

**しかし、救いの計画に救いの望みを  
見いだすことができます。**

わたしたちは皆、さまざまな場面で身動きが取れないと感じることがあります。個人的な試練でがんじがらめになっている人もいれば、自分の欠点や、人生で遭遇する難しい状況のために身動きが取れなくなっている人もいます。それでも、現世が悲哀を経験して強くなるためにあることを知っている、慰めがあります。わたしたちはイエス・キリストに希望を見いだすのです。

### 一筋の希望の光

地下に閉じ込められてから17日目、鉱山作業員たちに新たな希望の光が差し込みました。彼らを閉じ込めていた岩盤に、ドリルで小さな穴が開けられたのです。

閉じ込められていた作業員たちは自分たちが生きていることを地上にいる人に知らせたくて、ドリルをたたき、赤いマーカーで書いたメモをドリルの先にくくり付けました。こんなメモです。「エスタモス ビエン エネル レフツヒオ、ロス トレインタイトレス」(「わたしたちは避難所にいる。33人とも無事。」) 彼らは希望を新たにしました。見つけてもらえたのです。

グレープフルーツが1個どうにか通れる程度の穴でしたが、地上と連絡を取る方法が出来上がりました。食料や水、薬品、愛する者たちからの手紙が、この穴を通して鉱山作業員たちに送られました。

自分たちの置かれている状況が分かったとき、鉱山作業員たちは複雑な心境だったに違いありません。見つけてもらえたことで喜びと安堵の気持ちは非常に大きかったものの、彼らは依然として危険な状況にあったのです。地上

にいる人たちに自分たちの居場所を知ってもらうことはできたのですが、救出計画を実行に移すには時間がかかり、うまくいくかどうかすら分かりませんでした。

言いにくいことではありましたが、地上で救出に携わる人たちは、地上に引き上げるまで数か月はかかるだろうと鉱山作業員たちに伝えました。できればクリスマスまでには彼らを家族のもとに返したいと考えたのですが、それは、さらに4か月は地下から出られないことを意味していました。しかし、彼らは希望を持って待ちました。

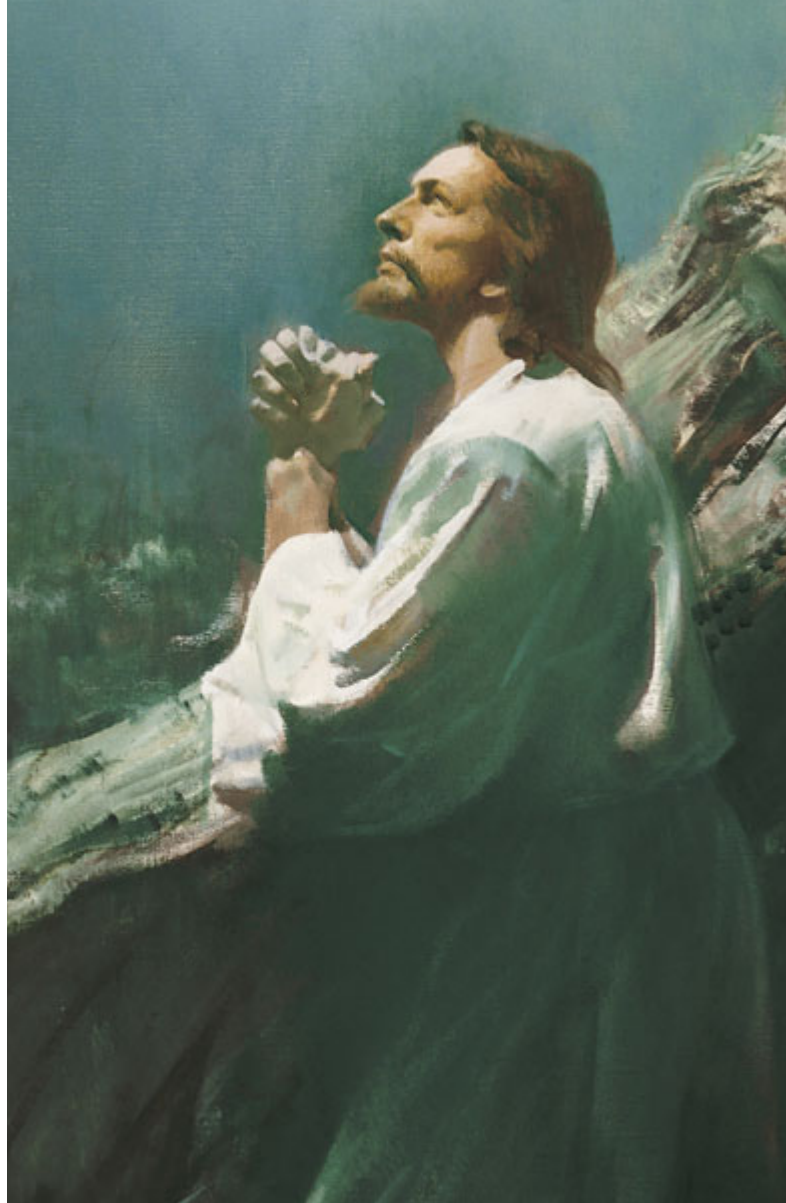
わたしたちにも、希望の光はあります。この世界が創造される前、わたしたちを救う計画が用意されました。天の御父は、死すべき状態や罪、弱さ、この世で経験するあらゆる苦しみからわたしたちを救ってくださる救い主を与えてくださったのです。救い主は希望と命を与えてくださいます。わたしたちが天の御父のもとに帰って、既にこの世を去った愛する者たちに会えるよう、道を備えてくださいました。救い主はわたしたちのそばにいて、わたしたちが背負っている重荷を取り除き、わたしたちの涙を拭き、平安を与えてくださいます。御自身の定められた計画に従うなら、わたしたちを天の家に帰れるようにするために来られたのです。

## 救出

鉱山作業員を救出するためにさまざまな試みがなされましたが、細いテスト用の穴をまっすぐに掘り進んで炭鉱作業員のいる所にたどりついたドリルは、一つしかありませんでした。

この救出劇で鉱山労働者はただ受け身で待っていたわけではありませんでした。救出のためにドリルが岩を掘り進むにつれ、削られた岩が、その細い穴から彼らのいる洞窟に落ちて山のようになります。彼らはその岩を片付けて、さらに大きなドリルで掘り進むことができるようにしたのです。

救出に携わる人たちは、ケーブルを使って狭い縦穴に下ろすカプセルを作りました。この救出用カプセルは、一人の男性がどうにか入れるほどの大きさです。硬い岩に開けた地下2,300フィート(700m)に至る縦穴との余裕は、たった



**わたしたちは皆、自分の意志を通すことをやめて  
救い主イエス・キリストを信頼しなければなりません。  
救われるための計画は一つしかありません。  
救い主の<sup>あがな</sup>贖いの犠牲を通してのみ、  
わたしたちは救われるのです。  
救い主はわたしたちを救うために、  
全てのもの下に身を落とされました。**

4インチ(10cm)しかありませんでした。

いよいよ鉱山作業員が救出される段になると、皆決断を迫られました。カプセルには一度に一人しか入れません。誰もがこの計画を信頼することにしましたが、カプセルが途中でバランスを崩して立ち往生することなく、狭い縦穴をまっすぐ正確に引き上げてもらえるかどうかは、念ずるしかありませ













## 回復を覚える

ジョセフ・スミスがモルモン書を翻訳し、オリバー・カウドリが筆記者を務めていたとき、二人は、西半球を訪れた復活された救い主に関する第三ニーファイの記録を目にしました。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは、バプテスマに関する主の教えについて学んだとき（3 ニーファイ 11:23 - 28 参照）、その当時行われていた多くのバプテスマの方式と、誰がバプテスマを施す権能を持っているかということについて疑問が湧きました。

二人は主に尋ねることにして、ジョセフとエマの自宅の近くの森に入って祈りました。そこで、偉大な啓示が与えられました。バプテスマのヨハネが現れて、二人の頭に手を置いてこう宣言したのです。「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。これは天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。また、レビの子らが再び義をもってささげ物を主にささげるまで、これは決して再び地上から取り去られることはないであろう。」（教義と聖約 13:1）

それは栄えある出来事でした。わたしは、全ての神権者が、1829年5月15日を教会歴史における神聖な出来事があった日として、また世界の歴史における特別な出来事があった日として、記憶に留めるように願っています。

信仰箇条には次のように述べられています。「福音を宣べ伝え、その儀式を執行するためには、人は預言によって、また権能を持つ者による按手によって、神から召されなければならない……。」（信仰箇条 1:5）

人は無作為に召されるのではありません。靈感と預言によって召されるのです。神権を行使するように召されている人には、主から靈感を受ける直接の経路があります。これは主が御自身の教会を統治される方法であり、この方法により主は預言者ジョセフ・スミスを召されたのです。

## 神権にふさわしくある

神権を受けることは、所定の年齢を迎えることによって自動的に訪れる人生の通過儀礼ではありません。わたしたちはふさわしくあり、「忠実であって、……これら二つの神権を得」なければなりません（教義と聖約 84:33）。わたしたちはメルキゼデク神権の誓詞と聖約を注意深く読まなく



てはなりません。そこには、神権を受けのために理解し同意しなければならない条件が具体的に示されています。

「それゆえ、神権を受ける者は皆、わたしの父のこの誓詞と聖約を受け入れるのである。わたしの父がこれを破られることはあり得ず、またこれが取り消されることもあり得ない。

しかし、だれでもこの聖約を受け入れた後にこれを破り、これから完全に離れてしまう者は、この世でも来るべき世でも、罪の赦しを受けることはない。」（教義と聖約 84:40 - 41）

これはとても重大なことです。それでは人々はアロン神権とメルキゼデク神権を受けようとしないと、皆さんは考えるかもしれません。しかし、次の節ではこう述べられています。「この神権に乗らない者は皆、災いである。」（教義と聖約 84:42、強調付加）

わたしたちは神権を受け入れて、それにふさわしく生活するなら、主の祝福を受けます。しかし、聖約を破り、神権から離れるなら、主の祝福を受けることや、「神の選民」となることはありません（教義と聖約 84:34）。

聖約によって受けるアロン神権は、若い男性が、誓詞と聖約によって受けるさらに大いなる神権であるメルキゼデク神権を受ける備えとなります。

## 手を差し伸べて奉仕する

神権によって偉大な兄弟愛が培われます。それは、おそらくこの地上で最も大いなる兄弟愛です。神権を持つ兄弟たちの関係は、わたしたちの家族内の関係を除く、他のどのような関係よりも大いなるものであるべきです。兄弟愛を持つ



ことに加えて、神権は奉仕の組織であり、わたしたちはこの組織で他の人々を助け、物事をより良くするために自分自身をささげます。

若い男性はアロン神権を受けて、執事か、教師か、あるいは祭司に聖任されると、そのときから定員会に所属します。メルキゼデク神権を受けて、長老に聖任されるとき、その定員会の兄弟愛は継続します。神権における定員会はきわめて大切です。

最近、伝道に出る若い男性が<sup>せいさん</sup>聖餐会で話をしました。その話の中で彼は、4人の友達と一緒に執事定員会から始まったと説明しました。困難な問題に直面しながらもアロン神権の昇進を受けたときの友情と互いの支えが、専任宣教師として奉仕するという目標に到達する助けになったと話しました。

わたしは定員会に所属しています。それは非常に特別な定員会です。定員会は、ありとあらゆる職業や専門職を持つ男性によって構成されています。しかし、定員会として行動するとき、わたしたちは目的において一つとなります。

定員会の会員が、ある事柄について全員が同意して従い、<sup>みこころ</sup>聖霊の影響の下でともに働くとき、主の御心に従って行動しているのです。定員会の会員による完全な合意を得られなければ、行動を起こしません。このことが、生涯を通じて

皆さんをどのように守ることになるか考えてみてください。

全ての定員会の指導者は、自分の定員会の会員のリストを持っているべきです。そして、どのような生活をするべきか

### 神権によって

**偉大な兄弟愛が培われます。  
それは、おそらくこの地上で  
最も大いなる兄弟愛です。**

なかなか定められない人々を把握しなくてはなりません。定員会に所属するそのような若い男性が数多くいる場合、指導者はそのリストに優先順位をつけ、養いが最も緊急に必要な人々に注意を払います。その後、指導者とその他の定員会会員は彼らを訪問し、兄弟の交わりの中に連れ戻すことを目的として彼らと友達になり、定員会の仲間として迎えるのです。

神権定員会には、「警告し、説き明かし、勧め、教え、またキリストのもとに来るようにすべての人を招〔く〕」義務と責任があります（教義と聖約 20：59）。神権定員会における奉仕は、地上でわたしたちが成長するために欠くことができません。したがって、全ての定員会会員は、これらの責務を

天の御父の王国における奉仕の義務の一部と考えなければなりません。

わたしたちは皆、死すべき試しの生涯で困難な問題に直面することを知っています。わたしたちが人生を過ごすときに、わたしたちを助ける支えがない限り、わたしたちを導き、案内する明確な計画表、明確な方向性、明確なロードマップがないということが分かるでしょう。適切に機能している定員会は、わたしたちが天の御父の前に戻れるように導く計画表とロードマップを作成するのを助けてくれます。

### 感謝する

ビショップは、アロン神権の若い男性など、ワードを管理する神権の鍵を持っています。事実、ビショップはワードの祭司定員会の会長です。ビショップは、若い男性がアロン神権を受けて昇進するように、またメルキゼデク神権を受ける備えをするためにふさわしくあるように助けます。若い男性が神権を持つ者に与えられる義務と祝福を理解できるように助けます。奉仕し、他の人々に仕え、教え、導くのに役立つ割り当てを与えることによって、神権を尊んで大いなるものとすることを学べるように助けます。

アロン神権に属する鍵は、神権の力、権能、また責任とともに、回復された神権にいつも感謝するべきであることをわたしたちに思い出させます。「小神権すなわちアロン神権の力と権能とは、天使の働きの鍵を持ち、また聖約と戒めにかなうって外形上の儀式、すなわち福音の文字、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを執行することである。」（教義と聖約 107：20）

わたしは若い男性の皆さんに、自分が受けている神権を尊び、アロン神権のそれぞれの職に昇進する備えをするように、そしてメルキゼデク神権を受け、専任宣教師として主に仕え、その後主の聖なる神殿で結婚するというさらなる祝福を受ける備えをするように勧めます。

わたしは証します。死すべき人間がこの教会を導いているのではありません。この教会は救い主の教会です。救い主が神権を通して教会を導いておられるのです。救い主は地上の人々に神権を授けられ、彼らが主の代理人として働いて主の教会を導き、神聖な儀式を執り行えるようにしておられるのです。主が地上に主の教会と神権を回復してくださったことに、わたしたちはどれほど感謝するべきでしょう。■







# 弟子の務め

についての救い主の教え

エルサレムへ向かうイエス・キリストの  
最後の旅に関するルカの記録から、  
救い主に従う方法についての明確なひな型を  
救い主がわたしたちに与えてくださっていることが分かります。

セミナー・インスティテュート  
ケイシー・W・オルソン

**救**い主はお亡くなりになるちょうど4か月前に、「天に上げられる日が近づいたので、エルサレムへ行こうと決意して、その方へ顔をむけられ」ました（ルカ9：51）。<sup>1</sup> それに先立つ数週間、イエス・キリストは、やがて訪れる苦難と並外れた霊的な出来事に対して御自分の弟子たちを注意深く備えられました。

例えば、ペテロがピリポ・カイザリヤでイエス・キリストの神性について証<sup>あかし</sup>を述べた直後に、救い主は御自分の弟子たちに、御自分の死と復活の時が近づいていることを初めて、はっきりと明白な言葉で告げられました（マタイ16：13－21；マルコ8：27－31；ルカ9：18－22参照）。<sup>2</sup> さらにイエスはペテロとヤコブとヨハネを伴って「高い山に登られ」、「彼らの目の前で〔イエスの〕姿<sup>かたち</sup>が変り〔ました。〕」（マタイ17：1－2）その場で、救い主とモーセとエリヤは、ペテロとヤコブとヨハネに神権の鍵を授けられました。またモーセとエリヤはイエスを慰め、励まし、「エルサレムで遂げようとする最後のことについて話し〔ました。〕」（ルカ9：31）<sup>3</sup> 十二使徒定員会のジェームズ・E・タルメージ長老（1862－1933年）は、山上でのこの出来事をイエス・キリストの死すべき世における教導の業の「大詰めの場面が始まろうとしているとき」と述べています。<sup>4</sup>

これらの出来事から分かるように、イエス・キリストは、「エルサレムへ行こうと決意して、その方へ顔をむけられ[た]」とき、それが死をもって終わる旅の始まりであることをはっきりと理解しておられました。この旅のことを最も詳細に述べているルカの書には、救い主が「教えながら町々村々を通り過ぎ、エルサレムへと旅を続けられた」とき(ルカ 13:22)、男女から成る弟子たちの一行が救い主とともに旅をしていたことが記されています(ルカ 11:27 参照)。<sup>5</sup> イエスはともに旅をしながら、弟子に求められることについて彼らにお教えになりました。この旅の出来事に沿って救い主の教えを研究するとき、わたしたちは、救い主が弟子の務めについての御自分の教えを自らの模範の力によってどのように強化されたかを、より一層深く理解できることでしょう。

### 「わたしに従ってきなさい」という イエス・キリストの教えに対する 3 つの返答

エルサレムへ向かう最後の旅を開始される少し前に、救い主はこう言明されました。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」(ルカ 9:23) 後に、イエスが弟子たちとエルサレムへ向かって旅をしておられる途中で、「ある人がイエスに言[いました。]『あなたがおいでになる所ならどこへでも従ってまいります。』」(ルカ 9:57) それに対して救い主はこう答えられました。「人の子にはまくらす所がない。」(ルカ 9:58) その意味は、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老がかつて述べた次の言葉に示されているように思われます。「イエスにとって、この世の生涯は決して安楽なものではありませんでした。」イエスに従おうとする人にとっても「同じではないでしょうか。」<sup>6</sup>

次いで、主は「ほかの人に、『わたしに従ってきなさい』と言われ[ました。]」(ルカ 9:59) しかしその人は、まず父を葬りに行かせてほしいと言いました。するとイエスはこう答えられました。「その死人を葬ることは、死人に任せておくがよい。あなたは、出て行って神の国を告げひろめなさい。」(ルカ 9:60)<sup>7</sup> 救い主のその言葉は、愛する人を失ったことを悲しむのは間違っているということではありません(教義と聖約 42:45 参照)。そうではなく、主への献身が弟子の最優先にするべきことであると強調しているのです。

さらに別の人がこう言いました。「主よ、従ってまいります、まず家の者に別れを言いに行かせてください。」(ルカ

9:61) するとイエスは、農夫のたとえを用いて答えられました。農夫の仕事では、後ろにあるものではなく前方にあるものに思いを集中することが求められるのです(ルカ 9:62 参照)。この人に対する教訓はただ一つ、「エルサレムへ行こうと決意して、その方へ顔をむけ」(ルカ 9:51)、後ろを振り返られなかった救い主の模範に従うことでした。

### サマリヤを経由する道

イエスが弟子たちとエルサレムへ向かう途中でサマリヤを通っておられたとき、一部のサマリヤ人は、「イエスを歓迎しよう」としませんでした(ルカ 9:53)。おそらく、イエスと弟子たちがユダヤ人だと気づいたからでしょう。<sup>8</sup> それに対して、ヤコブとヨハネは、その無礼な人たちを焼き払うために

良いサマリヤ人のように、  
イエスは御自分が出会った傷ついている人を  
一人一人助けられました。

天から火を呼ぶ許しを求めました(ルカ 9:52-54 参照)。この怒りを発しやすい状況で、救い主は忍耐と寛容を示し、同じようにするよう弟子たちを諭されました(ルカ 9:55-56 参照)。

この出来事があって間もなく、救い主は、良いサマリヤ人のたとえをお話しになりました(ルカ 10:25-37 参照)。このたとえは、腹黒い律法学者の質問に対する返答となっただけでなく、救い主の弟子たちに、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」という戒めには例外がないことを思い出させたかもしれません(ルカ 10:27。25-29 節も参照)。

さらに、救い主の弟子たちは、良いサマリヤ人の行動とイエスの行動が類似していることに気づいたかもしれません。良いサマリヤ人がユダヤ人に示した愛は、敵意を抱いているサマリヤ人たちに先頃イエスが示された慈愛を投影したものでした。またその後の数週間、救い主の弟子たちは、イエスがエルサレムへ向かう道中で多くの傷ついた人々に出会われるのを目にすることになります(ルカ 13:10-17; 14:1





－6:17:11－19:19:1－10 参照)。危険な、強盗が横行する道で立ち止まって、自分の都合よりも他の人の救済を優先した良いサマリヤ人のように、イエスは、御自分の死が近づいていたときでさえも、御自分のことを考えないで、出会った傷ついている人を一人一人助けられたのでした。

### 救い主はマリヤとマルタを教えられる

エルサレムへ向かう旅の途中で、イエスはマルタの家に立ち寄られました(ルカ10:38 参照)。マルタは「接待のことで忙がしくて心をとらみだし」(ルカ10:40)、妹のマリヤは「主の足もとにすわって、御言に聞き入ってい[まし]た。」(39 節) ユダヤ人の社会においては接待が非常に重要でした。そして、マルタは、その文化で期待されている女主人の役割を果たそうと熱心に努めていたようです。<sup>9</sup>

マルタは別の折にすばらしい献身と救い主を信じる信仰を示しました(ヨハネ11:19－29 参照)が、このときには不平を言いました。「主よ、妹がわたしだけに接待をさせているのを、なんともお思いになりませんか。わたしの手伝いをするように妹におっしゃってください。」(ルカ10:40) 教会員がこの出来事から重要な教訓を学ぶ助けとして、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、キャサリン・コーマン・パリー教授がブリガム・ヤング大学ディボーションナルで語った話を引用しています。

「主は、台所に行って、マルタに、料理をやめて話を聞きに来るようには言われませんでした。マルタがもてなしという奉仕をしてくれることに、主が満足しておられたことは明らかです。しかし、それは彼女が他の人の奉仕を裁くまでのことでした。……食事の支度で忙しくしているということではなく、マルタのうぬぼれが主の叱責を招いたのです。」<sup>10</sup>

このときのマルタの大きな間違いは、他の人を接待しているときでさえ、自分を中心に考えていたことであるように思われます。主や同胞に



ただ仕えるだけでは不十分であることを、救い主はマルタに理解させようとしたのです。わたしたちは、奉仕の過程で自分を二の次にすることと、行いだけでなく望みと動機にも導きを得るために主の御心みこころを求めることを学ばなければなりません（ルカ 9：24；教義と聖約 137：9 参照）。弟子は、自分のことを第一に考えるという性癖に打ち勝ち、「〔御父の〕栄光にひたすら」目を向けて天の御父とその子供たちに仕えることを学ばなければなりません（教義と聖約 88：67）。後に、マルタは自分の兄弟が死んだとき大きな信仰を示し、救い主が来られたと聞くと全てをおいてすぐに出迎えました（ヨハネ 11：19 - 20 参照）。

### 救い主は弟子に求められることを詳しく述べられる

後に、エルサレムへ向かう救い主の旅の途中で、ある人がこう願いました。「先生、わたしの兄弟に、遺産を分けてくれるようにおっしゃってください。」（ルカ 12：13） イエスはその人の問題の根源を取り上げて答えられました。「あらゆる貪欲に対してよくよく警戒なさい。たといたくさんの物を持っていても、人のいのちは、持ち物にはよらないのである。」（ルカ 12：15）次いでイエスは、愚かな金持ちのたとえを話されました（ルカ 12：16 - 21 参照）。

たとえの中で神がその金持ちのことを愚かな者と述べられた一つの理由は、その人の利己心であったのかもしれませんが。英文のルカによる福音書第 12 章 17 節から 19 節で、その金持ちは「I」「my」（わたし）という言葉を 11 回使っています。これは彼が自分を意識していたことを示しています。<sup>11</sup> その人は自分のことで頭がいっぱいであっただけでなく、自分の富の源を認識していませんでした。救い主が言われたように、その人は「豊作」にしたのは「畑」であることを認めておらず（ルカ 12：16）、その作物を实らせた大地を創造なさった主に感謝していませんでした。結局、その人が非難されたの





は、この世の食糧を蓄えるという賢明な行為についてではなく、将来のために霊的な備えをしなかったことについてだったのです。その人は「神に対して富まない者」であって（ルカ 12:21）、最終的には、この世で一時的に蓄えた富だけでなく、「尽きることのない〔天の〕宝」も取り上げられたのでした（ルカ 12:33）。この世の選びによって、永遠に貧しい者とされたのです。

突然の死を前にして物質的財産をため込んだ愚かな金持ちとは正反対に、イエスは持っておられる全てと御自身を——御自分の命と思いの全てを含めて——自らの意志で神にささげ（ルカ 22:42；モーサヤ 15:7 参照）、固い決意で死に向かって進んでいかれたのでした。こう述べておられます。「わたしには受けねばならないバプテスマがある。

マリヤとマルタのように、わたしたちは、  
奉仕の過程で自分を二の次にすることと、  
主の御心を求めることを  
学ばなければなりません。

そして、それを受けてしまうまでは、わたしはどんなにか苦しい思いをすることであろう。」（ルカ 12:50）イエスは既に水によるバプテスマを受けておられたので、これは御自身の贖罪について述べられたものでした。間もなくイエスは万物の下に身を落とされることになっていました。そして、その体は血と汗に覆われ、イエスはわたしたちの罪のために苦しみ、わたしたちの苦痛と苦難を経験されることになっていたのです。<sup>12</sup>

後に、あるパリサイ人たちがヘロデ・アンティパスがイエスを殺そうとしていると警告されたとき、救い主は、機会がある度に人々を教え、祝福し、癒やし続けるつもりであるとだけ述べられました（ルカ 13:31 - 33 参照）。救い主は、それまでの全ての日々と同じように、他の人々のために働きながら、死すべき生涯の最後の日々を過ごそうとされたのです。

さらにエルサレムに近づくと、イエスは弟子たちに、弟子になる費用を計算するように、すなわち事前によく考えてイエスに従うことを決意するようにと告げられました（ルカ 14:25

- 28 参照）。弟子であり続けるときに直面することになる厳しい現実を甘く見させないようにしようとされました。そしてきっぱりとこう言われました。「それと同じように、あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない。」（ルカ 14:33）しかし、わたしたちが弟子として歩むときに自分を二の次にするならば、わたしたちは報いとしてもっと多くのものを得るとも、救い主は約束しておられます（ルカ 9:24 参照）。「この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受ける」のも、その報いなのです（教義と聖約 59:23）。

わたしたちはイエス・キリストとともにエルサレムへの旅をする機会はありませんが、自分の生涯においてその旅に倣って歩む意欲を示すことは可能です。天の御父の御心に従って犠牲を払い、務めを果たされた救い主御自身の意欲を思い出すことによって、わたしたちは「行って同じように」行う強さを得ることができるのです（ルカ 10:37）。■

#### 注

1. A・B・ブルース, *The Training of the Twelve* (1971年), 240
2. 救い主の教導の業のもっと早い時期における出来事で、救い主の苦難と死が暗示されている聖句として、マタイ 9:15; 16:4; ヨハネ 2:19; 3:14 がある。
3. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』366 参照
4. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』367
5. マルコとマタイは、救い主が死すべき生涯の最後の時期にガリラヤを出発されたことをごく短い言葉で述べている（マタイ 19:1 - 2; マルコ 10:1 参照）。それとは対照的に、ルカはこの旅に注目し、詳細に述べている（ルカ 9:51 - 53; 13:22, 34; 17:11; 18:31; 19:11 参照）。ヨハネの福音書は、マタイ、マルコ、ルカの共観福音書とは内容が非常に異なっており、救い主がガリラヤからエルサレムへ向かう最後の旅に出られたことについては述べていない。
6. ジェフリー・R・ホランド「メシヤへの道」『聖徒の道』1989年3月号, 19
7. 親を敬うことはユダヤ人の文化において非常に重要であり、親の埋葬を適切に行う責任もそれに含まれていた。遺体を葬る準備をして墓に納めた後、家族は通常1年後にその骨を骨壺と呼ばれる石の箱に入れた。そしてその骨壺は、第2の埋葬として墓に納め、家族の他の死者のものと一緒に置かれた。（リチャード・ナイチェル・ホルザップフェル、エリック・D・ハンツマン、トーマス・A・ウェイメント共著, *Jesus Christ and the World of the New Testament* [2006年], 78 - 79 参照）この話の中の弟子が、最近亡くなった父親の遺体を至急葬る必要があるということではなく、第2の埋葬について語っているとしたら、このときの彼の要望は、神の御子とともにエルサレムへ旅をし、御子から教えを受けるという特別な機会よりも、文化的伝統を優先したいという願いを表明するものであった。
8. キリストの時代にはユダヤ人とサマリヤ人の間にかかなりの敵対意識があった。両者は通常、互いの交流を避けていた。この場合、サマリヤ人たちが食べ物や宿泊場所など、イエスと弟子たちに通常の接待をしなかったことは明らかである。（リチャード・ナイチェル・ホルザップフェル、トーマス・A・ウェイメント共著, *Making Sense of the New Testament* [2010年], 140; ラルフ・ガワー, *The New Manners and Customs of Bible Times* [1987年], 241 - 242 参照）
9. ガワー, *New Manners and Customs of Bible Times*, 244 - 245; フレッド・H・ワイト, *Manners and Customs of Bible Lands* (1953年), 69 - 77 参照
10. ダリン・H・オークス, "Judge Not and Judging," *Ensign*, 1999年8月号, 12 - 13 で引用。強調付加
11. ジェイ・A・バリー, ドナルド・W・バリー共著, *Understanding the Parables of Jesus Christ* (2006年), 122 参照
12. ルカ 22:44; アルマ 7:11 - 13; 教義と聖約 19:18; 88:6 参照







# 人間をとる 漁師



七十人  
スコット・D・  
ホワイトディング長老

教会において導く召しを受け入れた全ての人は、  
人間をとる漁師になるという  
救い主の招きを受け入れているのです。

**妻**とわたしは、ハワイで幼い子供を育てていたときにわたしたちを助けてくれたすばらしい末日聖徒に今でも感謝しています。この愛する会員たちはわたしたちを快く受け入れ、まるで自分の家族のように接してくれました。ワードの兄弟たちは、わたしの幼い息子を海釣りの活動に何回か連れて行ってくれました。この活動では船を使わず、昔のハワイ人が考案した古来の漁法を用いました。

その漁法を操る熟練の漁師は、周囲に重りのついた円形の網を細心の注意を払って折り畳みます。その後、漁師は、澄んだ海水だまりを見下ろす磯に注意深く網を運びます。魚がその海水だまりに入ってくるのを見ると、タイミングを見計らって巧みに網を投げ下ろします。すると、網が目いっぱい開いて大きな円になって着水し、すぐに海底まで沈んでいき、そこに集まった魚を捕らえます。

この漁師の腕前は見事なものです。彼はまず、きれいにし、繕い、完全に修理した良い網がなければ、魚を捕る努力が無駄になることをわたしたちに話すことでしょう。経験を積んだ漁師は、自分たちの成功が漁網の完成度にかかっている、網を調べて良い状態で

あることを確認しなければ、効果的で生産性の高い漁が始まらないことを知っています。

古代の使徒の数人は漁師をなりわいとしていたことから、この原則を理解していたことが分かります。これらの漁師は、マタイ、マルコ、ルカの初めの方の章で紹介されています。これから彼らの導き手となられる御方に初めて出会ったとき、彼らは網を打ち、繕い、洗っていました（マタイ4：18、21；マルコ1：16、19；ルカ5：2参照）。漁師たちは毎日働いて魚を捕り、自分の家族や他の家族を養っていました。彼らの繁栄と家族の生活は、彼らの準備と腕前と網の完成度にかかっていたのです。

イエスが、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」と彼らを招かれたとき、「彼らはすぐに網を捨て」、「いっさいを捨ててイエスに従[いました。]」（マタイ4：19、20；ルカ5：11。マルコ1：17-18も参照）

教会を導く責任を受けた人々は、「わたしについてきなさい」という招きに対して、この漁師と同様の信仰を持って応じていることが分かったとき、わたしは何度もこの模範について考えてみました。古代の教会のように、末日聖徒イエスキリスト教会は預言者と使徒によって導かれています。使徒と預言者は、自分の網と苦勞して得た職業を捨て、そして主に仕え、従うために新しい能力を磨いています。

## 人々の指導者

「人間をとる漁師」になるとはどういう意味でしょうか。初期の使徒を招かれた簡潔な言葉の中で、救い主は、後に御自身が何回もお使いになる説得力のある教え方を取り入れられました。それは、たとえて教えることでした。主に従うように召された人たちが、「人間をとる漁師」という言葉に



よって主が何を意図されたのかをある程度理解することを主は御存じでした。

ハロルド・B・リー大管長（1899 - 1973 年）はこう教えています。「『人間をとる漁師』になるということは、『人々の指導者になる』ということをも別の言葉で表現したものです。ですから、今日の言葉で言えば、……『わたしの戒めを守るなら、あなたを人々の中で指導者にしましょう』ということなのです。』<sup>1</sup>

人々の指導者とは、他の人々が「イエス・キリストに真に従う者」となる助けをするために召されている人のことです（モロナイ 7:48）。『手引き 第2部 —— 教会の管理運営』にはこう書かれています。「指導者はそのために、まず、自分が救い主の忠実な弟子となるように努め、神のもとに帰ってともに住むことができるような生活を日々送る。その後、他の人が証を強めて天の御父とイエス・キリストにいつそ<sup>あかし</sup>近づくように助けることができる。』<sup>2</sup>

教会において導く召しを受け入れた全ての人は、人間をとる漁師になるという救い主の招きを受け入れているのです。

### 網と評議会

教会における最も高い指導者のレベルからアロン神権定員会や若い女性のクラス会長会まで、指導者

は評議会を構成しています。指導者は、霊的に備え、評議会に積極的に参加し、人々に仕え、イエス・キリストの福音を教え、教会の神権組織と補助組織を管理運営するように求められているのです。さらに、指導者は、教会の中に一致と調和を築き、他の人々が指導者や教師になるように備え、責任を委任して、報告義務を確実に果たせるようにします。<sup>3</sup>

ちょうど初期の使徒が人間をとる漁師になるために漁業の知識を応用したように、わたしたちは、網を使う方法から学んだ原則を教会の評議会に応用することができます。網と同じように、これらの評議会は、天の御父の子供たちを集めるために組織され備えられています。評議会の各構成員は、網を構成する大切な役割を果たしています。ちょうど網が完全に修理されている場合のみその効力を発揮するように、評議会の構成員があるべき姿で組織され、焦点を合わせ、機能していなければ、評議会の力は弱くなってしまいます。

評議会の指導者は、漁師であった古代の使徒の模範に倣い、定期的にこれらの「網」を点検し、繕うことが必要です。評議会の指導者は、定期的な訓練を行い、評議会集会を指導し、評議会の構成員に適切な助言をタイミングよく与え、愛を示し、励まし、称賛の言葉を伝えることで模範を示します。適切に機能している評議会が持つ効果的な力と人を集める能力に代わるものではありません。





## ワード評議会

おそらく、教会の個々の会員に影響を及ぼす最も大きな機会がある評議会は、ワード評議会です。この評議会における男性と女性は、ビショップの指示の下で、まさにワードにおける救いの業を導く責任を持った人間をとる漁師に召されているのです。彼らはそれぞれのワードの区域内に住んで奉仕することで、そこで導くように割り当てを受けた人々を理解し、交わりを持つことができます。

「ワード評議会の構成員は、個人が証を育み、救いにかかわる儀式を受け、聖約を守り、献身的なイエス・キリストの弟子となるよう助けることに尽力する（モロナイ6：4－5参照）。ワード評議会の全構成員は、ワードの会員の福利に関して全般的な責任を負う。」<sup>4</sup>

ワード評議会の構成員は、救いの業を速めるために不可欠な役割を果たします。ワード評議会があるべき姿で機能していないとき、御業の速度は落ちてしまいます。「網」本来の人を集める能力は弱くなり、評議会の努力は限られた結果しかもたらしません。しかし、ワード評議会が個人と家族を強めるために組織され、それに焦点が当てられるとき、結果は驚嘆すべきものとなります。

わたしは、ワード評議会が効果的でないことにより行き詰まっていたワードを知っています。ビショップは、自分が行ってきた方法に慣れ親しみ、旧来の方法にこだわっていたため、『手引き 第2部』に書かれている指示に従うのが難しかったのです。しかし、愛あるステーク会長から幾度となく助言と訓練を受けた後、このビショップは心を和らげ、悔い改め、指示どおりに真剣にワード評議会を組織し始めました。彼はLDS.orgにある訓練ビデオを視聴し、『手引き第2部』の4章と5章を読み、学んだことに従って行動しました。

ワード評議会の構成員は、変化を喜んで受け入れました。そして、個人と家族を強めることに焦点を当てたとき、愛と一致の精神が彼らに満ちあふれました。全ての集会において、彼らは求道者、改宗したばかりの会員、あまり活発でない会員、助けの必要な会員について十分に時間をとって話し合いました。彼らの心がそれらの兄弟姉妹に向くようになると、奇跡が起こり始めました。

ワード評議会がこのように変わったほとんどすぐ後に、以前は知られていなかったあまり活発でない会員たちが教会に出席し始めたときビショップは報告しています。彼らは突然



## 話し合いに参加する

「主は人々を教え導いておられたとき、ガリラヤで漁師たちを召し、網を捨てて御自分に従うように求め、こう明言されました。『あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。』わたしたちが人をとる漁師の救援隊に加わり、できる限りの助けを与えられるよう祈っています。」

トーマス・S・モンソン大管長  
「救助の責任」『リアホナ』2013年10月号, 4

教会に戻るように促しを感じ、聖徒たちと再び交わりを持つ必要があるというはっきりとした強い印象を受けたと語ったそうです。彼らは、愛されていること、また会員が提供する支えが必要であることを知っていました。

天の御父がこれらのあまり活発でない会員の心と思いに教会の活動に戻る望みを起こしてくださる前に、受けた勧告に従い、指示どおりにワード評議会を組織するのを天の御父が待っておられたことが確かであると、ビショップはわたしに話しました。ビショップは、彼らが戻るように御霊が導く前に、彼らを愛し、養うことのできる環境を整える必要があることを理解しました。ビショップの言葉から、漁師ペテロの次の経験が思い出されます。

「その一そうはシモンの舟であったが、イエスはそれに乗り込み、シモンに頼んで岸から少しこぎ出させ、そしてすわって、舟の中から群衆にお教えになった。

話がすむと、シモンに『沖へこぎだし、網をおろして漁をしてみなさい』と言われた。

シモンは答えて言った、『先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう。』

そしてそのとおりにしたところ、おびただしい魚の群れがはいっ〔た。〕』（ルカ5：3－6）

わたしたちが、まことの「人間をとる漁師」である現代の預言者、聖見者、啓示者から与えられる勧告に耳を傾け、従うとき、また奉仕をしながらわたしたちの網を点検し、繕うとき、救いの業を速めるわたしたちの能力が大きく向上し、わたしたちは、天の御父の子供たちを集めるために御父の御手に使われる者となることができるでしょう。■

## 注

1. ハロルド・B・リー, Conference Report, 1960年10月, 15
2. 『手引き 第2部——教会の管理運営(2010)』3.1
3. 『手引き 第2部』3.2.1－5; 3.3.2－4
4. 『手引き 第2部』4.4



## 破裂した桃

**わ**たしは自分こそ完璧な親であると思っていました。ただし子供が生まれる前のことです。

わたしにとって、親であるということは、まさに精錬する者の火です。ストレスや睡眠不足が重なり、心配やいらいらが募ると、弱点が頭をもたげてくるようです。確かに、親となって受ける祝福はそのようなつらいひとときを補って余りあるのですが、その中で分かったのは自分は怒りっぽいということです。恥ずかしながら、子供の注意を引こうとして、叫んだり、物を投げたりしたこともありました。

怒りを抑えようと何度決心しても、ストレスがたまると我慢できませんでした。この状態から抜け出すためにわたしには何か劇的な経験が必要だということ、を、天の御父は御存じでした。

桃の瓶詰めを終始した長い1日が終わろうとしたある夜のこと、最後の分を蒸し器で加熱し、少しでも仮眠を取ることにしました。しばらくしたらちゃんと目を覚まし、瓶を蒸し器から取り出せると思っていました。

ところが、目は覚めなかったのです。夫のクインとわたしは瓶が破裂する音にびっくりし飛び起きました。わたしは台所へと走って行くと、台所中至る所に粉々になったガラスとべとべとの桃が散乱していました。間違いなく、蒸し器の水が蒸発し、熱と圧力が上がって蒸し器の蓋が吹き飛び、7つの瓶のうち6つが破裂してしまったのです。

「朝になったら片付けよう。」わたしはそう思いました。

その考えは間違っていました。朝になると、熱いべちゃべちゃの桃はすっかり固まり、ガラス片の混じった塊になって、台所とダイニング一面にこびり

ついていました。硬化してしまった桃とガラスの塊が調理台の器具の後ろ、さらには冷蔵庫の後ろを含むありとあらゆる所にべたべたと貼りついていました。

片付け終わるまで数時間かかりました。ガラスの入った塊を湿らせたペーパータオルで柔らかくし、けがをしないように注意して拭き取らなければなりませんでした。

片付けていると、聞き慣れた声がわたしにささやきました。「メアリー、怒り

が爆発したら、この桃の瓶がそうであったように、片付けは容易ではありません。あなたの怒りが子供や周りの人たちのどこをどのように傷つけるかは分かりません。この飛び散った塊と同様、そのときについた傷はすぐに深くなり、痛むのです。」

その瞬間、片付けには新たな意味が生まれました。強烈な教訓でした。わたしの怒りと同様、部屋の混乱も容易には収まりませんでした。何週間

**わ**たしは台所へと走って行くと、台所中至る所に粉々になったガラスとべとべとの桃が散乱していました。







## 正しいことをしただろうか

たっても、ガラスの食い込んだ固い桃の小さな塊が見つかったのです。

わたしの大きな弱点であった忍耐が、いつの日か、わたしの大きな長所となるように祈ります。それと同時に、主の贖いのおかげで、感情をよりよくコントロールできるようになり、怒りを爆発させることで子供たちを混乱させないで済むことに感謝しています。■

メアリー・ピーシンガー  
(アメリカ合衆国、ユタ州)

わたしはジャーナリストとしては名前が知られていて、ペルーのリマで一流雑誌や新聞に寄稿していました。しかし生き方は神から遠く離れ、そのために苦しみが募るばかりの毎日でした。そこで、我が家から離れたベンタニラ地区で、ある雑誌の校正の仕事を引き受けることにしました。当時の交友関係を必死に断ち切ろうとしていたのです。ベンタニラで人生が変わるような気がしていました。

ときどき、ガールフレンドのマリア・クリスティナと一緒に教会に出席しました。そんなとき、二人の善良でいちずな宣教師のおかげで、この教会が真実かどうか天の御父に祈って尋ねるべきだと悟りました。わたしは祈り、その結果、表現しがたい経験をしました。いまだかつてないほど強い御霊を感じ、忘れがたい日となったのです。

その後しばらくして、わたしはマリア・クリスティナと結婚し、バプテスマを受け、ベンタニラで小さなアパートを借りましたが住み心地はよくありませんでした。一生懸命働いたので、わたしはその会社の雑誌と新聞の校正者から編集長に昇進しました。編集長として働いたことはありませんでしたが、その役職には満足していました。しかし、自社出版物の標準が下がり、道徳的に問題のある作品を出版するようになってからというもの、事態は変わり始めました。上司の指図によるそのような変化は、教会の原則や価値観に反していました。

前々から編集長になりたいと思ってはいましたが、新しい状況には居心地の悪さを覚えました。ビショップは、わたしたちが天の御父のお喜びになる

ことをするなら、天の御父は祝福してくださいと言ってくれました。妻とそのことについてよく考え、祈った結果、仕事を辞めた方がいいという促しを受けました。

数日がたち、わたしはストレスでつぶれそうになり、自分は正しいことをしたのだろうかと思い悩み始めました。退職後、幾つかの会社に履歴書を送りましたが、何の反応もありませんでした。マリア・クリスティナが、もう一度一緒に祈ってみてはどうかと言ってくれたので、そうすることにしました。たとえ請求書がたまっていったとしても、全てのことが最終的にはうまくいくように、信仰を失うことがないようにと祈りました。

数時間後、妻から一つの会社に電話を掛けるよう勧められました。半信半疑で、電話を掛けてみました。驚いたことに、電話に出た役員が、今ちょうどわたしに電話をするところだったと言ったのです。その会社で翌日から働けるかどうか知りたかったのです。

わたしたちは喜びの涙を流しました。天の御父はわたしたちの祈りにこたえてくださったのです。

新しい仕事に就いたために、ワードやたくさんの友人と別れなければなりませんでした。証は強められましたが、現在の仕事はすばらしく、給料も良く、また住み心地の良い所に住んでいます。何よりもすばらしいことは、神のお喜びになることをすれば、神から祝福を受けるという確信を授かったことでした。■

カルロス・ハビエル・レオン・ウガルテ  
(ペルー、リマ)

# あなたを愛しています

伝道部のゾーン大会がもうすぐ終わろうとしていたとき、わたしは外に立って、考え込んでいました。「わたしはこの異国の地で何をしているのだろう。期待されていることを全て成し遂げるにはどうすればいいのだろう。」

イタリアのシチリア島に来てからまだ1週間と少ししかたっていませんでしたが、もう気落ちしてしまっていたのです。宣教師訓練センターではすばらしい夢のような時間を過ごしましたが、自分の力不足のため、任地ではまるで悪夢を見ているようでした。

わたしはこう祈りました。「心から愛するお父様、わたしはすばらしい宣教師になりたいのです。伝道に出て気づきました。わたしには、宣教師として派遣された目的を果たすための才能も技術も知性もありません。この言語の知識はあると思っていましたが、皆ものすごく早口で、自分でも何か話そう

としても、舌が絡まって、思うように話せません。同僚はわたしのことを好きではないと思います。伝道部会長は英語がほとんど話せません。相談相手が一人もいないのです。どうぞ助けてください。」

中に戻らないといけないことは分かっていたのですが、もうほんの数分だけ通りにたたずんでいました。突然、コートの背中を3度強く引っ張られるのを感じました。振り返ると、かわいい女の子が立っていました。わたしは、石畳の通りで彼女の隣にゆっくりとひざまずきました。彼女は両腕でわたしの首を抱き、耳元でこうささやきました。「ティ・ボグリオ・ベネ。」

「何て言ったの？」その子に英語が分かるはずはないのに、わたしは英語で答えました。

彼女はわたしの名札をじっと見詰めました。「ソレッラ・ドメニチ。」〔訳注

——ドメニチ姉妹] 彼女はそう読むと、こう言ったのです。「ティ・ボグリオ・ベネ。」

その言葉の意味は分かりました。宣教師として最初に学んだ言葉の一つだったからです。それは魂に直接語り掛ける言葉でした。こういう意味です。「わたしはあなたを愛しています。」

まさしくわたしがそのときに耳にする必要のある言葉でした。救い主は、その言葉をわたしに伝えるために、一人の特別な使いを遣わされたのです。わたしは女の子を連れて建物に入りました。

「ここにいる会員の子供に違いない。」そう思いました。女の子が母親の目に留まってくれることを願いながら、宣教師の間を擦り抜けて行きました。

同僚を見つけたとき、わたしは尋ねました。「この女の子を前に見たことある?」

「どの女の子?」彼女は当惑した様子で答えました。

わたしは自分の傍らに目をやりました。女の子はいなくなっていたのです。

わたしは建物の開け放された戸口に立ち、誰もいない通りをあちこち見渡しました。思い巡らしていると、この言葉が聞こえただけでなく、心の中に響き渡るのを感じました。「ソレッラ・ドメニチ。ティ・ボグリオ・ベネ。」

その女の子が誰なのかは分かりませんでしたでしたが、救い主がわたしを愛しておられることは分かりました。■

ナタリー・T・フリストラップ  
(アメリカ合衆国、ユタ州)

振り返ると、**振**かわいい女の子が立っていました。わたしは、石畳の通りで彼女の隣にゆっくりとひざまずきました。







翌日の午後、  
夕食として  
料理していたものを、  
結婚記念日を祝う  
モーガン姉妹と  
御主人のもとへ  
持って行くようにという  
促しを感じました。

## 食事は質素すぎたでしょうか

2年ほど、わたしは近くに住む友人であるモーガン姉妹の訪問教師でした。二回りほど年上のモーガン姉妹のおかげで、彼女がわたしの家庭訪問メッセージから学んだのと同じくらいたくさん、彼女と彼女の人生から学びました。

わたしが訪問教師だったとき、モーガン姉妹はがんと診断されました。勇敢に治療に耐え、ほほえみをほほ絶やさないその姿にわたしは目を見張りました。

ある訪問のとき、彼女が「明日は結婚記念日なのよ」と言ったことがあります。やがて話題も他に移り、わたしたちの訪問も終わりました。

翌日の午後、夕食として料理していたものを、結婚記念日を祝うモーガン姉妹と御主人のもとへ持って行くようにという促しを感じました。最初はその促しを無視しました。何の変哲もない普通の日の食事を準備していたからです。こんな簡単な料理は、きっとそのような特別なお祝いには似合わないに違いないと思ったのです。

しかしその促しが頭から離れること

はありませんでした。わたしは仕事中の夫に電話を掛けました。夫からもつまらない思い付きだと言ってほしかったのです。しかし夫は、モーガン姉妹に電話をして夕食を持って行くと言った方がいいと勧めたのです。

ありきたりの食事が恥ずかしく、自分勝手な押し付けだと思ったので、彼女に電話するのを躊躇したのですが、夕食を分かち合うべきであるという気持ちは振り払えませんでした。そこでわたしは食べ物を器に盛りつけ、不安な思いで通りを横切りました。

前庭に着くと、モーガン兄弟と姉妹が、ちょうど車に乗ろうとしているところでした。二人の記念日に夕食を持って来たので、受け取ってもらえたらうれしいと言いました。

モーガン姉妹は満面に笑みを浮かべました。がんの治療で疲れ果て、自分で料理をしたり、遠くへ食べに行けないので、仕方なく近くのファストフード店で記念日を祝おうとしていたところだったと打ち明けてくれました。自宅で夕食が取れるというのでほっとした様子

でした。

自分が料理した簡単な食事を受け取ってもらえて、わたしは心の底から安心し、喜びました。

それから2か月とたたないうちにモーガン姉妹の治療は終わりましたが、時を同じくして愛する御主人が急病で亡くなりました。ほんの何週間か前の記念日が二人の最後の記念日となったのです。

その夏、わたしは御霊の静かな細い声に従って仕えるということについて多くを学びました。求められたり促されたりする奉仕が、わたしたちの判断では、気まづかったり不都合だったり、地味だったりということもあります。しかし、それこそが必要な奉仕なのかもしれません。この経験を通して、わたしは主がわたしを必要とされるいかなる召しであれ、勇気をもって奉仕できるようになり、「天使の務め」を果たすための信仰が深まったのです（『シオンの娘』『賛美歌』195番）。■

ジェニファー・クリンゴンスミス  
（アメリカ合衆国、ユタ州）





# 主の保証を信頼して

必ずしも試練から  
救い出されるとは  
限りませんが、  
主の保証を求めるとき、  
試練の最中でも、  
全ては善いということを知ることができます。

教会機関誌  
ミンディ・アン・リービット

**わ** たしは神殿の日の栄えの部屋に座り、自分の生活が向かっている方向について深く考えていました。計画していたコースからかなり外れたものだったからです。ヤングアダルトの多くがそうであるように、わたしの思いは心配事だけでした。どうしたら学業と友達付き合いのバランスを取れるのか。アルバイト

をやめるべきか。それとも、もう一つ別なアルバイトを見つけるべきか。お金がないのに、どうしたら貯蓄ができるのか。なぜまだ結婚できないのか。心配事は、嫌になるほどたくさんありました。慰めを求めて神殿に行き、自分の生活が天の御父に導かれることを保証してくださるよう祈りました。「わたしの生活は万事うまくいくのでしょうか」と尋ねたのです。答えは素早く、そして疑問の余地なく心に届きました。「全ては善し」であると。

その瞬間、分かったのです。たとえ生活が自分の計画どおりにいってなくても、それは主の計画に従っているのであり、主が主導権を持っておられるのだということが。主がわたしを御存じで守ってくださっているという、この心地よい確信があれば、たとえ試練を取り去っていただけないとしても、多くの困難を乗り越えることができると思いました。このような保証が与えられることを理解し、求め、待つとき、わたしたちは課せられた重荷に耐えられるよう主が支えてくださると知ることができるのです。

## 解放に先立つ保証

明らかなのは、願い求めたら即座に試練から解放されることが、必ずしも主の答えではないということです。即座に解放する代わりに、主は、個人の啓示を通して保証というかけがえのない祝福を与えることがおできになります。主がわたしたちの生活を導いておられ、必ず試練から救ってくださるという保証です。そのような保証があっても、試練からは解放されないかもしれません。しかし、たとえそれが聖霊による慰めにすぎないとしても、解放されるに必要な力は得られるのです。聖文の中には、主が解放に先駆けて保証を与えてくださる例が数多くあることに気づきました。

ヒラマンが2,060人の若い兵士その他のニーファイ人の軍勢を率いていたとき、彼らは主から確信を頂きました。何か月もの間物資と援兵を待っていた彼らのところに食糧とわずかな援兵が届いたとき、彼らは餓死寸前の状態でした。そのような少ない援兵と食糧では足りないことが分かり、怖くなった彼らはついに、「心を神

に注ぎ出して祈り、……強めてくださるように、また敵の手から救ってくださるように〔祈り〕ました。」ヒラマンは次のように言っています。祈った後に、「主なるわたしたちの神は、わたしたちを救うという保証を与えてくださいました。わたしたちの霊に平安を告げ、わたしたちに大いなる信仰を授け、また主によって解放されるという望みをわたしたちに抱かせてくださったのです。」(アルマ 58:10-11) この保証を頂いたヒラマンとその兵士たちは、力を得て持ちこたえ、ついには敵に勝利することができました。

ジョセフ・スミスもまた、リバティーの監獄に捕らわれている間に、主から保証を頂きました。熱心に祈った彼に、主は言われました。

「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にはすぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。あなたはすべての敵に打ち勝つであろう。」(教義と聖約 121:7-8)

その保証のおかげでジョセフは、再起不能に陥りそうな困難の中でも業を続ける勇気と不屈の精神を持つことができたのです。

これらの例と他の多くの事例(例えば、モーサヤ 24:8-16 参照)において、主は忠実な人々を直ちに試練から救おうとはなさいませんでした。むしろ、彼らを訪れ、主御自身の時に必ず救うという保証を与えられたのです。十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老の言葉を借りると、このような保証は「〔わたしたちの〕行く手



### 主の力の保証

「わたしたちは皆、逆境と向き合わなければなりません。……苦悩の中で、救い主が約束された助けを待たなくてはならないとき、主は御自身の経験からわたしたちを癒やし助ける方法を御存じだという事実は、わたしたちに慰めを与えてくれます。モルモン書は、慰めを与える主の力が確かであると伝えています。この力を信じるなら、わたしたちは忍耐強く祈り、働き、助けを待ち望むことができます。」

大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長  
「逆境」『リアホナ』2009年5月号、23-24  
参照

を明るく照らすために」天の御父が与えてくださる「霊の光」のようなものです。<sup>1</sup> 時には、最後には救われるという保証があるだけで、試練に耐えることができます。

### 保証を求める

人生は困難なものです。時には疑問を感じたり、自分自身を疑ったり、逆境に打ち勝つだけの能力が自分にあるのか自信が持てなかったり、希望をなくしたりすることがあります。試練が果てしなく続くように感じることもしばしばです。そして、何の努力を

しなくても保証が与えられる場合もありますが、多くの場合わたしたちは、試練から救われるという保証を求める必要があります。

主の保証はしばしば、主の僕<sup>しもべ</sup>の声を通して与えられます。地元の指導者、インスティテュートや日曜学校の教師、さらに特に主の預言者や使徒を通して与えられるのです。中央若い女性会長会顧問のキャロル・F・マッコンキー姉妹は、次のように指摘しています。「彼らの話す言葉に、わたしたちは主の声を聞き、救い主の愛を感じます。」<sup>2</sup>

そのような保証は、熱心な祈りによって心から天の御父と親しく語り合うとき、聖文を読んで深く考えるとき、神殿に参入したり教会の集会に出席したりするとき、人に奉仕して義にかなったことを行うときに、御霊<sup>みなたま</sup>の声を通して与えられることもあります。つまり、主の保証は、わたしたちが「心をつくし、精神をつくして、主を求め〔て〕」、戒めに従うときに与えられるのです(申命 4:29)。

ヒラマンとその軍隊は、何度も誠心誠意祈った後に保証を受けました。ジョセフ・スミスは、祈り、深く考えた後に保証を頂きました。どちらの場合も主は、保証をお与えになる前に彼らの忍耐と信仰を試しておられます。試練の最中にあるときは、信仰をしっかりと持って忍耐すべきだという良い例です。

### 保証が与えられるのを待つ

忍耐が試されるときはいつもそうですが、主の保証は、わたしたちが望むときや望む方法では与えられ



ないことがあります。自分の生活の中にある主の手を「見る目」(エゼキエル12:2)と保証が与えられるよう祈る必要があるかもしれません。十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、主の深い<sup>あわ</sup>憐れみには霊的な保証が含まれることについて、次のように語っています。主の深い憐れみは「無作為に注がれるものでも、偶然に示されるものでもありません。この大切な賜物<sup>たまもの</sup>は、わたしたちが忠実<sup>みこころ</sup>で従順でなければ受けることができません。そして御心<sup>みこころ</sup>にかなったときに注がれるからこそ認識できる場合が多いのです。」<sup>3</sup>

多くの場合、試練からの解放を待つときも、解放されるという保証が与えられるのを待つときも、それまでには、限界を超えるほど忍耐が試されます。深刻な試練を通らない限り、どのような保証も頂けないのかもしれませんが。スコット長老は次のように説明しています。主がお授けになる「霊の光」は、「しばしば、最も過酷な試練を経験した後で、全てを御存じである御父の愛と思いやりの現れとしてもたらされます。それは皆さんをさらに深

い理解へと導くものであり、主の御心を受け入れてそれに従おうとする決意を強めてくれるものとなるでしょう。」<sup>4</sup>

### 最も偉大な保証

結局のところ、天の御父がわたしたちとわたしたちが置かれている状況を御存じだという保証をどれほどたくさん頂いたとしても、イエス・キリストを信じる信仰と希望がなければ、最後まで堪え忍ぶ助けにはならないのです。わたしたちは主の<sup>あがな</sup>贖いを通して、いつか試練から救われるという、疑問の余地のない希望を得ることができます。また、救い主がそばにいて、わたしたちの苦悩を完全にくみ取ってくださると知ることができます。それは、主が「万物の下に身を落とし、それによってすべてのことを悟」られたからです(教義と聖約88:6)。主はわたしたちの試練や悲しみを理解しておられます。なぜなら、主は「御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを……知ることができるように」「あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられ[た]」からです(アルマ7:11-12)。

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は次のように言っています。「何よりも、神の計画が救い主を約束していることを忘れてはなりません。すなわち、主を信じるわたしたちの信仰を通してそのような試しと試練に勝利させ、栄光のうちに高く上げてくださる贖い主です。……この神聖な愛を正しく認識することで、わたしたちはそれに比べて小さな自分の苦しみにまず耐えられるようになり、次いでそれを理解できるようになって、最終的に贖いを受けられるようになる

のです。」<sup>5</sup> 主と主の贖いについて学ぶことは、それ自体が保証になります。

### 全ては善し

主からの保証を理解し、熱心に求め、待ち望むならば、必ずそれを頂くことができます。そのような貴重な瞬間は覚えておくべきです。書き記し、頻繁に思い返してください。何よりも大事なものは、保証を頼みにすることと、ヒラマンとその軍隊や預言者ジョセフが信じたように、主がわたしたちへの約束を果たしてくださると信じることです。主は御自身の保証を通して、その約束の数々を思い起こさせてくださいます。保証によって試練が消えてなくなるわけではありませんが、天の御父がわたしたちとともにおられて、どのようなときも支え、強めてくださると知ることができます。

あの日の神殿での経験の後も、わたしの試練は軽くはなりません。突然完璧な成績が取れたり、収入が増えたり、デートに引っ張りだこになったりしたわけではありません。しかし、試練があっても大丈夫だという穏やかな確信がありました。なぜなら、主は、わたしを救い出すという約束を守ってくださるからです。そのような保証があるので、全ては**確かに**善しだということが分かるのです。■

### 注

1. リチャード・G・スコット「主を信頼する」『聖徒の道』1996年1月号, 19
2. キャロル・F・マッコンキー「預言者の言葉に従って生活する」『リアホナ』2014年11月号, 77
3. デビッド・A・ベドナー「主の深い憐れみ」『リアホナ』2005年5月号, 100 参照
4. リチャード・G・スコット「主を信頼する」, 19
5. ジェフリー・R・ホランド「破れた器のように」『リアホナ』2013年11月号, 40

「霊の光は……しばしば、最も過酷な試練を経験した後で、すべてを御存じである御父の愛と思いやりの現れとしてもたらされ、皆さんをさらに深い理解へと導いてくれます。」



リナ・邱欣 遙

2005年、わたしは専任宣教師として奉仕するため、台湾の楠梓にある故郷を離れてカリフォルニア州北部に行きました。同僚とわたしが派遣された伝道地域はあまりに狭く、4か月半いただけで、中心街にある全ての家を訪問してしまいました。伝道活動は困難で、わたしたちはよくどなられました。求道者もほとんどいませんでした。こんなところで働いても何にもならないと思い、4か月がたつ頃には、出ていく用意をしていました。自分は転勤になると確信していたのです。

日曜日の夜、わたしはゾーンリーダーから電話が来るのを待っていました。自分がこの伝道地域にもう6週間残ることになったという報告をゾーンリーダーから受けたときには、耳を疑いました。何かの間違いに違いないと思ったのです。

それからの1週間は、わたしにとって最悪な日々でした。恐らく同僚や、わたしが仕えている人たちにとっても同じだったと思います。そこにとどまることが正しい判断だと考えることを、わたしはかたくなに拒否しました。それでも人と会うたびに満面の笑顔を見せていました。でも、心の底では不満を感じていました。わたしは高慢にも、自分がいるべき場所はここではないと、自分に言い聞かせ続けていたのです。伝道部会長が電話してきて、別の伝道地域に転勤するよう言うだろうと、まだ思っていました。

# 転勤は ありません



伝道部会長は  
何か間違えたに  
違いないわ。  
これ以上ここにいて、  
いったい何を  
学べるというの。

### 安らぎを得るまで

次の日曜日、しぶしぶと教会に行く準備をしているときに、電話が鳴りました。伝道部会長でした。いつもの優しく誠実な口調でわたしに挨拶をすると、こう言ったのです。「<sup>チヨウ</sup>遙姉妹、昨日昼食のときに、ふとあなたのことが心に浮かび、あなたに電話して、あなたは正しい場所にいるのだということを知らせてあげる必要があると感じたのです。あなたはいるべきところにいるのですよ。」その言葉を聞いて、涙があふれました。

わたしは感謝の言葉を述べて電話を切りました。泣き出したときに、心にはっきりと分かったのです。この伝道地域には、確かにやり残した仕事があって、わたしの働きを待っているということが。また、天の御父がわたしの思いと悩みを知っておられることも、分かりました。御父はわたしの弱さを御存じで、僕を送ってわたしを安心させてくださったのです。

この電話以来、わたしは不平を抱かずに伝道に力を入れるようになりました。毎日力を求めて祈りました。主がわたしに望んでおられることを行うにはどうすればよいのか、もっとはっきりと分かるようにしてください、と祈ったのです。それからの5週間、

同僚とわたしは信仰をもって一生懸命に働き、多くの奇跡を見ました。よく準備のできた求道者がわたしたちの伝道地域に引っ越してきて、次の転勤までの間にバプテスマを受けました。

また、以前はわたしたちを歓迎してくれなかった人たちから自宅に招かれたりもしました。苦勞している人たちとの新たな出会いがたくさんあり、わたしたちは祝福されて、慰めに満ちた神の言葉を分かち合うことができました。そのときはバプテスマを受けなかった人もいますが、わたしは彼らの輝く笑顔を決して忘れません。そして、<sup>みたま</sup>御霊と神の愛が彼らの心とわたしの心に働きかけたことも、決して忘れません。

### わたしが学んだこと

主は本当に、わたしたち一人一人を御存じだということを知りました。主は、理由もなく宣教師をある場所に送ることはなさいません。わたしたち宣教師がある伝道地域に派遣された場合、主はわたしたちを御手に使って、その地で主の業を行おうとしておられるのだということ、わたしは学びました。自分自身を神の御手にゆだねるならば奇跡が起こり、人々の心は和らぎます。どうすればそんなことができるのかわたしたちには分からない場合でも、それは起こります。

大切なのは、わたしの伝道部会長が、教会の他の指導者と同様、確かに主の僕として神から召されているのだということが分かったことです。主は指導者を、わたしたちの幸せのために必要な啓示と靈感を受けるにふさわしい者としておられます。

わたしは、転勤がなかったおかげでこのような経験ができたことに、限りなく感謝しています。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ在住です。







大管長会第二顧問  
ディーター・F・  
ウークトドルフ管長

# 慌ただしいペースの 世の中で 生きる

日々の生活と慌ただしいペースと多くのストレスのために  
喜びを感じられなくなっているなら、恐らく今こそ、  
最も大切なことに再び焦点を当て直す時期なのです。

**皆**さんは飛行機に乗っているとき乱気流に遭遇したことがありますか。乱気流の最も一般的な原因は空気の流れの急激な変化です。それによって飛行機は上下や左右に揺れたり、回転したりします。飛行機は、通常のフライトで遭遇するよりはるかに大きな乱気流にも耐えられるように作られていますが、それでも乗客は不安になります。

乱気流に遭遇したとき、パイロットは何をすると思いますか。パイロット訓練生は、より速く乱気流を切り抜けるには、スピードを上げればよいと考えるかもしれませんが、それは恐らく間違っています。プロのパイロットは、乱気流を切り抜ける際、その影響を最小限に抑えるのに最適なスピードがあることを知っています。それはほとんどの場合、スピードを落とすことを意味するのです。同じ原則が、道路の減速帯にも当てはまります。

ですから、状況が思わしくない場合には、少しペースを落とし、進路を安定させ、必要不可欠なことに集中するのが得策と言えるでしょう。

## 現代生活のペース

乱気流や障害にもかかわらず、ますます速いペースで進んでいることが、現代社会の特徴の一つであるようです。

正直に言って、忙しくするのはむしろ簡単です。わたしたちは皆、スケジュール表に書き切れないほどの仕事を思いつきます。また、自分の価値はなすべきことの多さで決まると考えている人さえいます。



## 神との関係

賢明な人は、日々の慌ただしさに身を任せるといふ誘惑を退けます。そして「スピードを上げることばかりが人生のすべてではない」<sup>1</sup>というアド

バイスに従います。つまり、彼らは最も大切なことに焦点を当ててののです。

十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老はこう教えました。「わたしたちは、より良いものや最も良いその他のものを選ぶために、良いことをあきらめる必要があります。なぜなら、より良いものや最も良いものは、主イエス・キリストへの信仰をはぐくみ、家族を強めるからです。」<sup>2</sup>

最も良いものを求めれば、必ずイエス・キリストの福音の基本原則に行き着きます。それは、思いやりに満ち、すべてを御存じである永遠の天の御父によって示された簡潔で美しい真理です。

## 最も大切なものはどのように分かりますか

ほとんどの人が、基本の大切さを直感的に理解していると思います。ただ、もっと魅力的に思えることがあまりに多くあり、気をそらされてしまうのです。

印刷物、あらゆるメディア、電子機器など、ふさわしく使えば便利なものばかりですが、ともすれば、わたしたちの気をそらす妨害物や、人と人を隔てる冷酷な壁となってしまいかねません。

しかし、多くの声や選びの中であって、ガリラヤの謙遜な御方は両手を広げて立ち、待っておられます。「わたしに従ってきなさい」という簡潔なメッセージを（ルカ18：22）、大音量のマイクを使うことなく、静かな細い声で語っておられます（列王上19：12参照）。しかし、その基本的な福音のメッセージは、四方から押し寄せる情報の洪水に、いとも簡単に流されてしまいます。

聖典と生ける預言者の語る言葉は、福音の基本的な原則と教義を強調しています。わたしたちがこれらの基本的な

原則や純粹な教義に立ち返らなければならない理由は、それらが意義深い真理に通じる扉だからです。

## 基本——4つの基本的な関係

最も大切な事柄について、わたしたちが天の御父に頼り、主の知恵を求めるとき、次の4つの鍵となる関係について繰り返し学びます。神との関係、家族との関係、周囲の人々との関係、そして自分自身との関係です。自分自身の生活を進んで評価するとき、より優れた道からどの点で離れてしまっているかが分かるでしょう。理解の目が開かれ、心を清めて、生活の焦点を調節し直すために何が必要かに気づくでしょう。

まず、神との関係は最も神聖で重要です。わたしたちは神の霊の子供です。神はわたしたちの御父であられ、わたしたちの幸福を願っておられます。わたしたちが神を求め、御子イエス・キリストについて学び、聖霊の影響力に対して心を開くなら、わたしたちの生活はより堅固になり、安定します。神の永遠の計画に従って生活し、主の戒めを守るために最善を尽くすなら、より大きな平安と喜びを感じ、より偉大なことを達成できるでしょう。

わたしたちは次のような方法で、天の御父との関係を改善することができます。神について学び、神と話し、罪を悔い改め、積極的にイエス・キリストに従うことです。「だれでも〔キリスト〕によらないでは、父のみもとに行くことはできない」からです（ヨハネ14：6）。神との関係を強めるには、



## 家族との関係



神と自分だけの意義深い時間が必要です。日々の個人の祈りや聖文研究に静かに集中し、常に神殿推薦状を持つのにふさわしくあろうと努力します。天の御父に近づくために、このように時間と努力をささげることは賢明な投資です。詩篇に記されている勧めに聞き従いましょう。「静まって、わたしこそ神であることを知れ。」(詩篇 46:10)

第2の鍵は家族との関係です。「いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできない」<sup>3</sup>ので、家族を優先順位の高い

位置に置かなければなりません。夕食を囲んだり、家庭の夕べをしたり、ただ一緒に楽しい時間を過ごしたりするなど、簡単なことを一緒に行うことで、愛にあふれた、深い家族関係を築くことができます。家族関係において、愛と

は実は**時間**をともに過ごすことです。互いのために時間を取ることは、家庭での一致を図るための鍵です。家族について話すのではなく、家族と話すのです。互いに相手から学び合い、共通点だけではなく、相違点も理解し合います。家族の祈りや福音の研究、日曜日の礼拝を通して一緒に神に近づくときに、家族の間に神聖なきずなが作り上げられます。

第3の鍵は、周囲の人々との関係です。人々の必要に敏感になり、仕え、時間や才能をささげることによって、個人的な関係を一人ずつ築いていきます。ある姉妹が高齢と病気で大変であるにもかかわらず、多くはできないけれど、人の話に耳を傾けることはできると決心したと聞いて、わたしは深い感銘を受けました。彼女は毎週、困っている人や、落胆している人を探してともに時間を過ごし、話を聞きました。彼女は、実に多くの人の人生に祝福をもたらしました。

第4の鍵は自分自身との関係です。自分自身との関係を

築くと言うと、奇妙に思えるかもしれませんが、実際築いているのです。中には、自分とうまくつきあえない人もいます。一日中自分を非難し、けなし、しまいには自分を嫌いになってしまうのです。急ぐのをやめ、ほんの少し時間を取って、自分自身をもっとよく知りましょう。自然の中を散策したり、日の出を眺めたり、神の創造物を満喫したり、回復された福音の真理について思い巡らしたりしながら、それらが自分にとってどのような意味があるかを見いだしてください。皆さんも天の御父と同じ目で自分自身を、神聖な可能性を持った、貴い神の息子や娘として見るができますように。

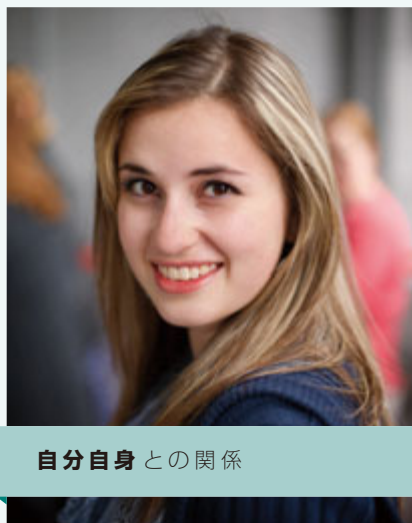
### 簡素さがもたらす強さ

強さは、慌ただしい生活からではなく、真理と光の堅固な土台に基を据えることでもたらされます。強さは、回復されたイエス・キリストの福音の基礎に関心を向け、努力を傾けることからもたらされます。強さは、最も大切に神聖な事柄に注意を向けることからもたらされるのです。

もう少し生活を簡素化しましょう。生活を見直し、変えるべきことを変えて、キリストの弟子として簡単なことを謙虚に行うという崇高で美しい道に立ち返りましょう。その道は常に、意義深い、喜びと平安に満ちた生活に続いているのです。■



周囲の人々との関係



自分自身との関係

2010年10月の総大会の説教から抜粋。

#### 注

1. マハトマ・ガンジーの言葉。ラリー・チャン、*Wisdom for the Soul* (2006年) 356で引用
2. ダリン・H・オークス「良いこと、より良いこと、最も良いこと」[リアホナ] 2007年11月号、107
3. J・E・マッカロク、*Home: The Savior of Civilization* (1924年)、42。Conference Report, 1935年4月、116も参照。

# わたしたちのスペース

## 面接で予期しなかった質問

**伝**道後、わたしは仕事探しに苦労しました。そうこうしているうちにやっと、ある会社で面接を受けました。とても良い仕事内容でしたが、自分の能力が足りないのではないかと心配しました。面接を受ける順番になり、緊張しながらマネージャーの前に座りました。彼の机に目をやると、応募者に尋ねる質問が書かれた紙が見え、胸がどきどきしました。質問には難しい言葉が使われていたからです。

マネージャーはわたしの履歴書を手に取り、職歴について尋ね始めました。「専任宣教師」という言葉を読んで、伝道でどんなことを伝えていたか教えてほしいと言われました。

わたしは預言者や救いの計画、永遠の家族について話しました。マネージャーはほほえんで、「ぜひ我が家に来て、家族に会ってほしい」と言いました。

彼は再び面接の質問が書かれた紙

を手に取りました。再び緊張感も戻りました。彼はこう尋ねました。「マニラで泊まれる場所がありますか。」そして、わたしの反応を待たずに、こう続けました。「これから探してください。明日から来ていただきますから。」

奇跡でした。伝道の経験が仕事の面接に役立ったことを、わたしは決して忘れません。■

アルビン・A (フィリピン)

## 迫害の中にも平安がありました

**わ**たしは次のスピーチのテーマを聞いて、姿勢を正しました。「モルモン教会が間違っていて、モルモンが他宗教を嫌う偽善者であるのはなぜか」というテーマでした。スピーチを聞いているわたしの頬は赤らみ、ショックと裏切られた気持ちでいっぱいになりました。仲の良い友達が、わたしが末日聖徒であることを知りながら英語のクラス全員の前で中傷的なことを言うなんて、信じられませんでした。

チャイムが鳴った後、スピーチをした本人と、他の友達がわたしに近づいて来ました。わたしは御霊によって心が燃えるのを感じながら、話の内容が間違っていて、教会が同じ信念を持たない人々を嫌うことなどないと説明しました。すると、彼らは間違ったことや言いがかりを次々と突きつけてき

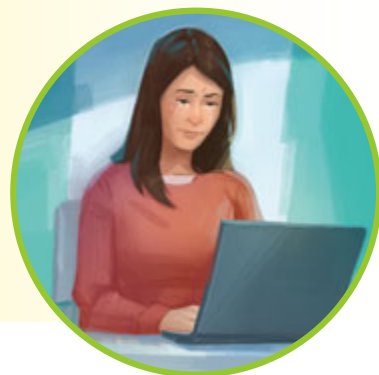
ました。わたしは孤独を感じました。「わたしは真実だと知っていることに添って生きているだけなのに、どうして理不尽な迫害を受けなければならないのだろう」と思いました。

その日、学校から帰宅すると、祖母からの電子メールが届いていました。祖母はそのメールで、マタイによる福音書第5章11節から14節を読むように勧めていました。わたしは目を潤ませながら次の言葉を読みました。「わたしのために人々があなたがたをののしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。……あなたがたは、世の光である。山の上にある町

は隠れることができない。」

その言葉を読んだとき、心が御霊で満たされました。迫害がわたしたちの証<sup>あかし</sup>を強めること、そして天で受ける祝福には地上で味わう苦痛をはるかにしのぐ価値があることを知っています。救い主は、わたしたちが御自身の福音に従って生活したことで迫害を受けるときに平安を得られるようにしてくださいました。そのことに本当に感謝しています。■

ベカ・F (アメリカ合衆国, モンタナ州)







## 音楽の大脱出

ある日、学校の校外学習でバスに乗っていると、後ろの席の女の子が失礼な言葉や冗談を言っていて、不快な気持ちになりました。教師や他の生徒も彼女にやめるように言いましたが、彼女はやめませんでした。どうしたらよいか分からなかったため、MP3プレイヤーを取り出して好きな音楽を聞くことにしました。

シャッフルをかけると、最初にかかった曲は [youth.lds.org/music](http://youth.lds.org/music) でダウンロードしたものでした。次の曲に飛ばそうとしたとき、心の中で、そのまま音楽を聞きなさいという声がしました。それから20分間、靈感あふれる音楽をずっと聞いていました。忍耐

強くありなさいと励ます歌詞や、わたしが天の御父に愛されている娘であることを思い出させてくれる歌詞がありました。

その週の後半、学校でダンスパーティーがありました。人気のある曲の下品な部分を削除して使用していましたが、同じ学年の生徒の多くは、ある曲の削除された言葉を大声で叫び始めました。

わたしは再び居心地の悪い思いがしました。教師たちは近くに座っていましたが、事態に気づいていないようでした。わたしは自分の手首を見ました。ユースカンファレンスでもらったブレスレットを着けていました。そこ

には「あなたがたは聖なる場所に立ち、動かされないようにしなさい」と書かれていました(教義と聖約 87:8)。

自分が立っている場所は聖なる場所ではないと知っていたので、別の曲がかかるまで会場を出ました。

音楽がわたしたちの生活に大きな影響を及ぼすことを知っています。数日前にMP3プレイヤーで靈感あふれる音楽を聞いたことで、ダンスパーティーの会場を出る勇気ももらったことを知っています。これらの経験は、天の御父にさらに近づくのを助けてくれました。■

アリクサ・B (オランダ)

# バプテスマの ヨハネ のように 福音を 分かち合う

バプテスマのヨハネが  
救い主の最初の来臨に先立って  
道を備えたように、  
皆さんも救い主の再臨のために  
人々が備えるのを  
助けることができます。



教会機関誌  
ライオン・カー

バプテスマのヨハネと違う点  
は、皆さんの伝道場所は  
「ユダヤの荒野」ではない  
ことです(マタイ3:1)。「らくだの  
毛ごろも」を着たり(マタイ3:4)、  
「いなごと野蜜」を食べたりするこ  
ともありません(マタイ3:4)。しかし、  
福音を分かち合う目的はバプテスマの  
ヨハネと同じです。「悔い改めよ、天  
国は近づいた」と宣べて人々をイエス  
の来臨に備えるのです(マタイ3:2)。

バプテスマのヨハネの使命は明確で  
した。「主の道を備えるためにメシヤ  
に先立って来る」ことでした(1ニー  
ファイ10:7)。でも、その使命を実行  
することは簡単ではありませんでした。  
彼の前の最後の預言者はマラキで、  
400年も前の人でした。「預言者がい  
ないまま、その地の人々は党派とグ  
ループに分かれ、それぞれが聖文を  
解釈し民を指導する権利は自分たち  
にあると主張し始めました。エホバに  
ついての正しい理解がこれらのグルー

プの中に見られなくなりました。』<sup>1</sup>

ヨハネの時代、困難もありました  
が、群衆は彼の教えを聞きに荒野野  
へ来ました。ヨハネは多くの人にバプ  
テスマを施しました。未来の二人の使  
徒、愛弟子ヨハネとアンデレはヨハネ  
を通してイエスと知り合いました(ヨ  
ハネ1:40 参照)。

今日、福音を分かち合うことは同じ  
ように大変です。現代生活には、人々  
の気をそらすものがたくさんあります。  
この世の哲学が人々を迷わせていま  
す。さらに多くの人々が道徳的に高い  
標準を持って生きられなくなってい  
ます。宗教は必要ないと思う人もいま  
す。

このような状況の中で、皆さんはど  
うすればバプテスマのヨハネのように  
福音を分かち合うことに成功できるで  
しょうか。ヨハネの生涯から学べる、  
役立つ教訓を幾つか紹介しましょう。

ヨハネは自分の使命を知っていま  
した。人々がキリストのもとに来るの  
を助けるために召されていることを  
知っていました(ルカ1:16 参照)。  
救い主を見たとき、ヨハネはこう証し  
しました。「見よ、世の罪を取り除く神  
の小羊。」(ヨハネ1:29) ヨハネは  
人々に自分に従うように勧めるのでは  
なく、彼らがイエス・キリストの弟子と  
なれるように助けました。ヨハネは救  
い主について次のように語りました。  
「彼は必ず栄え、わたしは衰える。」  
(ヨハネ3:30)

ヨハネはイエス・キリストの福音の  
基本的な原則を教えました。正義と  
あわれみ、正直、道徳、断食、祈り、悔い  
改めと罪の告白、水に沈めるバプテス



マ、復活、裁きについて民に教えました（マタイ3章；ルカ3章参照）。彼の教えは救い主と同じ言葉で表すことができます。「人々は、その教に驚いた。……権威ある者のように、教えられたからである。」（マルコ1：22）

ヨハネは世の人々とは異なる生活をしていました。イエスはヨハネを世の教師と比較しました。ヨハネは「柔らかい着物をまと〔い〕、きらびやかに着かざって、ぜいたくに暮らしている人」ではありませんでした（ルカ7：25）。「ぶどう酒や強い酒をいっさい」飲みませんでした（ルカ1：15）。ヨハネは

「荒野で呼ばれる者の声〔でした。〕『主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ』と教えました（マルコ1：3）。彼が神の力によって教えたので、人々は御霊を感じて改心しました。

ヨハネは熱心に働きました。ある学者はヨハネの特質をこのように要約しています。「彼の誠実さ、自分の特別な召しへの完全な献身、そして神の御子への完全な忠実さ。これらの特質に、神聖な神権の権能、何ものも恐れない性質、個人的な正しさが加わって、聖典に登場する最も偉大な人物の一人となったのです。」<sup>2</sup>

バプテスマのヨハネは、その生涯を学ぶと、イエス・キリストにバプテスマを施す特別な祝福にあずかっただけの人物ではなかったことが分かります。彼の生涯と使命は救い主の来臨に人々を備えることでした。皆さんと同じなのです。■

注

1. S・ケント・ブラウンとリチャード・ナイツェル・ホルツアップフェル「失われた500年——マラキからバプテスマのヨハネまで」『リアホナ』2014年12月号, 30
2. ロバート・J・マシューズ, “John the Baptist: A Burning and a Shining Light,” *Ensign* 1972年9月号, 79



**あなたがこの時代に生まれたのはなぜでしょうか**

「皆さんもわたしも主の来臨を喜ぶでしょう。そして、主が戻って来られるときに向けてこの世を備える手助けをし、神聖な義務を果たすために、主が自分をこの時代に地上に送ってくださったことを、感謝するでしょう。」

十二使徒定員会  
ニール・L・アンダーセン長老  
「この世を再臨に備える」  
『リアホナ』2011年5月号, 52

# でも、この場合はどうでしょうか

## 伝道に出ることについての質問

もうすぐ伝道に出る皆さんは、「本当に自分に務まるのだろうか」と自問するかもしれません。大丈夫です。できます。簡単ではないかもしれませんが、決して後悔することはないでしょう。

**伝**道に出る準備をすることに不安が付き物です。金銭面や知識、人見知りをすることなど、心配事は尽きませんが、心配の種が何であろうと、必要な確信と勇気を得られるでしょう。以下は、よくある質問と答えです。恐れを克服し前進するための信仰を見いだす助けとなるでしょう。

### 聖文や福音についてよく知らない場合はどうすればよいでしょうか

伝道の備えの一環として、福音の研究は必須ですが、伝道に出る前に全てを知る必要はありません。例えば、十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老は若い頃、伝道に出る準備ができていないのではないかと心配になり、こう祈りました。「『天のお父様、わたしはあまり知識もありません、どうして伝道に出ることができのでしょうか。』わたしは教会を信じていましたが、自分の霊的な知識はとても乏しいものだと感じていました。祈っていると、このような気持ちを抱きました。『あなたは全てを理解し

ているわけではありません。しかし、あなたは十分に知っています。』」<sup>1</sup>

着実に福音の原則を学び、聖文を研究するならば、福音の知識は与えられます。また、あなたは独りではありません。聖霊があなたを導いてくださいますし、あなたには、伝道を助けてくれる同僚や宣教師のリーダー、伝道部会長がついています。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の教えを思い出してください。「信仰の大きさや、知識の深さは問題ではありません。それよりも、既に持っている信仰と既に知っている知識に忠実であることの方が大切です。」<sup>2</sup>

### 自分に証があるかどうか分からない場合はどうすればよいでしょうか

証を得ることは、重要な伝道の備えです。証が弱いと感じているかもしれませんが、強めようと誠実に努力するならば証は必ず育まれます。次のことを覚えておきましょう。

- ・ 静かに聖文を研究し祈る時間を見つける。御霊<sup>みたま</sup>の促しを感じる

時間を取ることが必要です。

- ・ 福音に従って生活する。ヨハネ7:17を参照し、なぜこのことが証を強める助けとなるかを見いだしてください。
- ・ 少しずつ証を強める。「霊の旅路は生涯続きます。始めから全てを知っているわけでも、旅の間に全てが分かるわけでもありません。少しずつ、改心していきます。」<sup>3</sup>

また、自分が思っているより証が強いこともあることを覚えておきましょう。ホランド長老は次のような話をしています。「最近、14歳の少年が少しためらいながらこう言いました。『ホランド兄弟、ぼくはまだ教会が真実であると知っていると言えないのですが、真実であると信じています。』わたしはその少年を強く抱き締めました。そして彼に、信じるというのは重要な言葉であり、非常に重要な行為でもあり、『ただ信じている』だけだと言って謝る必要は決してないことを……伝えました。わたしは彼に、キリスト御自身が『恐れることはない。ただ

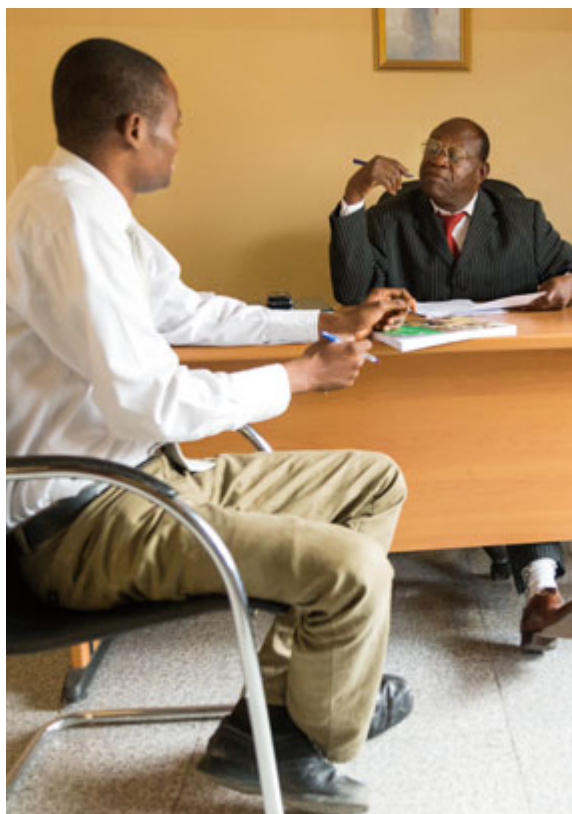


信じなさい』と言われたことを伝えました。……わたしはその少年に、信じるのが確信を得るための第一歩であること、……また彼が正直に信仰を求めていることを褒めました。』<sup>4</sup>

#### ふさわしくないと感じる場合はどうすればよいでしょうか

何か過ちを犯しているならば、解決することができます。ビショップや支部会長は、あなたがイエス・キリストの贖いあがなを通して清くなるために何を必要があるかが分かるよう助けてくれます。十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老はこう言いました。「出るべきかどうか知るために祈らないでください。そうではなく、立派で有能な専任宣教師となるために必要な全てのことについて、主に導きを願い求めるのです。』<sup>5</sup>

ロシアのレベカ・Sは自分の経験分かち合っています。「わたしは悔い改めましたが、罪悪感と心の痛みは消えず、自分の過ちがあまりにひどかったために伝道に出ることはできないのだと思い込んでいました。しか







## 若い女性—— 伝道に出るか出ないかを決める

**若**い女性は、伝道に出る義務は負っていませんが、その機会が与えられています。伝道に出るかどうかが決定する際、次のような疑問を抱くかもしれません——

- ▶ 伝道に出るべきだろうか。どうすれば分かるだろうか。
- ▶ 今、専任宣教師になる備えをするべきだろうか。
- ▶ 伝道を考慮すべき理由は何だろうか。
- ▶ わたしは良い宣教師になれるだろうか。

「若い女性と伝道の決意」『リアホナ』2013年1月号、32 - 35に答えと助言が載っています。

し、ビショップとステーク会長は、贖いの癒やしの力がわたしに及んでいることを気づかせてくれました。悔い改めに感謝しています。ふさわしくあることは、伝道に不可欠です。御霊を受けるふさわしさがなければ、御霊により教えることができないからです（教義と聖約 42：14 参照）。心に平安がなくては、心を尽くして奉仕することができません。伝道に与える影響は計り知れません。」

## 家族や友人と離れることなどできるでしょうか

愛する人たちと離れることは容易ではありません。帰還後、友人や家族、そして誰より自分自身の状況が変わるような場合はなおさらです。自分がない間家族がどのように家計をやりくりするのか、あるいは家族が自分の伝道にどんな反応を示すのかなど、心配があるかもしれません。しかし、主はあなたの愛する人たちの世話をし、あなたの奉仕のゆえにその人たちを祝福してくださるでしょう（教義と聖約 100：1 参照）。愛する人たちと会えないことで寂しく感じるでしょうが、主はあなたに、伝道地の他の家族が福音により幸せを見いだせるよう助けてもらいたいと望んでおられます。天

の御父はあなたとあなたの家族の幸いを願っておられることを信じましょう。また、「信仰とは、神がわたしたち一人一人のために多くの偉大なものを用意しておられ〔る〕……ことを信じることです。』<sup>6</sup> あなたとあなたの家族が前進するための信仰を見いだすときに、主は驚くほどの祝福を用意してください。

## 費用が賄えない場合はどうすればよいでしょうか

伝道に出るための費用は大きな犠牲のように思えますが、あなたにしてほしいことを主は御存じです。十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長はこう述べています。「伝道資金をどのように工面すればよいか分からない若い男性に申し上げます。わたしにも分かりませんが、このことは知っています。すなわち、あなたに信仰があり、伝道に出ると決意すれば、道は開けます。』<sup>7</sup>

英国出身のローラン・Cは次のような経験をしました。「伝道に出るための書類を書き始めた頃に銀行から連絡があり、クレジットカードにまつわる多額の負債があるとわたしに伝えてきました。わたしはビショップと予算計画を立て、借金の返済と伝道、<sup>しょうぶん</sup>什分



の一、その他の支出にいくらずつ支払うかを決めました。大きな犠牲が要りましたし、目標を達成できないのではないかと思いました。しかし、誠実に什分の一を納めると、主が助けてくださいました。見知らぬ人がお金を用立ててくれたのです。それは、借金を完済し伝道の目標を達成するために必要だった額でした。」

### 人見知りで、人と話すのが苦手な場合はどうすればいいですか

毎日、一日中見知らぬ人に話しかけると考えると大変だと思うかもしれませんが、アメリカ合衆国カリフォルニア州のサム・Lはこう振り返ります。「自分の家の玄関で対応することさえ嫌うわたしにとっては、見ず知らずの人の戸をたたいて福音について話すなど、まったく不可能なことのように思えました。

ステーク大会で、わたしたちは宣教師と連れ立って福音を宣べ伝えるようにと言われました。本物の宣教師と一緒に、実際に話しかけるなんて。不安になりましたが、ある聖句を思い出しました。『あなたの神、主なるわたしはあなたの右の手をとってあなた

に言う、「恐れてはならない、わたしはあなたを助ける。』（イザヤ41:13）わたしは助けを求めて祈りました。まだ戸惑いはありましたが、聖霊から力を得て、なんとモルモン書を2冊配ることができました。』

### 学校や仕事に支障を来す場合はどうすればよいでしょうか

大学への入学や就職の準備をしているときに時間を割いて伝道に出ると、将来に支障を来すのではないかと考えるかもしれませんが、実際はその逆です。主はあなたに成功してほしいと思っておられるので、助けてください。諦めるものが何であろうと、伝道に出ることに勝る価値はありません。

多くの若人が同じような決断を迫られてきました。オーストラリア出身のウィリアム・Hは、帰還後にプレーする機会があるかどうか分からないまま、プロラグビー選手としての前途有望な道を諦めました（「伝道のためのタイムアウト」『リアホナ』2012年6月号、50-52参照）。フィリピン出身のジョセフ・Bは、教育を受けるまたとないチャンスを断るために、大学の事

務局に出向きました（「<sup>はんさい</sup>播祭としてささげる」『リアホナ』2007年9月号、40-42参照）。伝道後に希望していたことが実現するかどうかにかかわらず、宣教師として奉仕すること以上に価値のある機会はありません。

### 悔いなし

天の御父はわたしたちの幸せを願っておられるので、わたしたちの祝福や助けとならないことを行うよう求められることはありません。主から求められたことを忠実に行うなら、たとえそれが大変なことであっても、実行したことでもたらされる祝福は、この世で得られるどのようなものよりも、はるかに素晴らしいことに気づくでしょう。伝道に出たことを後悔することは決してないでしょう。■

### 注

1. ニール・L・アンダーセン「あなたは十分に知っています」『リアホナ』2008年11月号、13
2. ジェフリー・R・ホランド「主よ、信じます」『リアホナ』2013年5月号、94
3. アンダーセン「あなたは十分に知っています」13
4. ホランド「主よ、信じます」94-95
5. リチャード・G・スコット「今こそ伝道に出る時です」『リアホナ』2006年5月号、90
6. ジェフリー・R・ホランド「最善はこれからだ」『リアホナ』2010年1月号、21
7. ボイド・K・バックナー、「Come, All Ye Sons of God,」*Ensign*, 1983年8月号、71



「友人の一人が、何か悪いことが話題に上がったときにそれが理解できるよう、一度だけそのことを体験してみたいと言います。そうしない方がよいと分かってもらうにはどうしたらよいのでしょうか。」

**あ**なたができる一つの良い方法は、なぜ戒めを与えられているかを友人が思い出せるよう助けることです。天の御父が戒めを与えてくださったのは、わたしたちを愛しておられ、戒めがわたしたちに幸せをもたらし、わたしたちが御父に似た者となるための助けになることを御存じだからです。

新約聖書の中で救い主はこう語っておられます。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」(ヨハネ 14:15) 正義を選ぶことにより、天の御父とイエス・キリストへの愛と、主の贖<sup>あがな</sup>いと福音に対する感謝を示せることに、友達が気づけるよう助けてください。

また、ただ一度であっても悪いことをすれば悪い結果が生じることも伝えたとよいでしょう。罪を犯しながらその結果を避けることはできないからです。意図的に戒めを破ることは、天の御父から遠ざかり、天の御父のことを他の友人ほどには大事に思っていないのだと御父に伝えるようなものです。

天の御父はわたしたちを愛してくださっており、戒めを守る人には祝福として御霊<sup>みたま</sup>の導きを与えてくださいます。わたしたちは従順であれば、試しに罪を犯したときよりも多くのことを御霊から学びます。



**試す必要はない**

わたしならその友達にこう言います。「善いものは何であろうと神から出、悪いものは何であろうと悪魔から出る……。」(アルマ 5:40) 全ての行いには結果が伴うこと、また、自分を傷つけるようなことをするべきではないと伝えるでしょう。悪を経験する必要はありません。わたしたちの周りには既にたくさんの悪があり、戒めを守らないために多くの人が惨めな状態にあることは明らかです。

ビニシウス・S, 17歳 (ブラジル, サンパウロ)



**自分がどのように誘惑を克服しているか伝える**

本当に大切なのは、神の目に自分がどう映っているかだということをお友人に伝えましょう。一時的な経験と引き換えに永遠の救いを棒に振ってはなりません。また、自分がどのように誘惑を克服したかを伝えると、もっと助けになるでしょう。

エミリー・G, 19歳 (プエルトリコ)

**わたしたちは神のようになる可能性を持っている**

一度悪い選択をしたくらいでは害がないように思うかもしれませんが、さらに深刻な罪の引き金になることを思いやりをもって友人に教えるとよいでしょう。次の聖句を分かち合ってもよいでしょう。「主なるわたしは、ほんのわずかでも罪を見過ぎにすることはない……。」(教義と聖約 1:31) たった一度罪を犯すだけでも、御霊の声に対して鈍感になってしまうことを友人



に伝えましょう。何より、あなたが友人を愛していることと、正しい選択をすることは神のようになる可能性を持つ神の娘のなすべきことの一つだと伝えましょう。

アドリアナ・F, 17歳  
(アメリカ合衆国, アリゾナ州)

### 一度きりでも痛い

たった一度きりであっても、あらゆる悪い行いは御霊を遠ざけます。御霊が去ってしまうと、サタンはさらに悪いことをするよう誘惑しやすくなります。また、何回犯すかにかかわらず全ての罪は悔い改めなければなりません。深刻な罪を悔い改める場合、長期にわたって、苦痛を味わうことになります。エミリー・L, 14歳 (アメリカ合衆国, ユタ州)



### 確固としている

あなたが友人を愛していて、友人が正しいことを選べるよう助けたいと思っていることを伝えましょう。わたしは自分の経験から、誰かを理解するために、必ずしもその人と同じ選択をしなくてもよいことを知っています。福音に従った生活をする、どのように人々と関わればよいか分かるよう、御霊が助けくださるでしょう。他の人が戒めに従う助けとなれるよう、確固としていなければならないと友人に伝えましょう。友達を助け、友達に仕えることができるように祈りましょう。

バニナ・P, 19歳  
(アルゼンチン, ブエノスアイレス)

### 歯止めが利かなくなるかもしれない

わたしなら、試そうと考えることさえやめるよう友人に言います。一度きり

だからと言って、悪いことをするのはよくありません。一度でも手を染めると、歯止めが利かなくなるかもしれないからです。天の御父は、わたしたちの安全と幸せを守るために戒めを与えてくださったのです。

ダグラス・B, 13歳  
(アメリカ合衆国, カリフォルニア州)

### 小さなことから始まる

ジェフリー・R・ホランド長老はこう述べました。「『千里の道も一歩から』という古いことわざがあります。自分の足もとに注意してください。」「(わたしの敵に場所を与えてはならない)『リアホナ』2010年5月号, 45) わたしなら、サタンは小さな誘惑を用いてわたしたちを悪い道へと誘うことを友人が理解できるよう助けます。悪いことを一度でも試してみると、それをきっかけにサタンとその手下は繰り返し誘惑してくるようになるでしょう。

シミロニ・F, 18歳 (アメリカ合衆国, ユタ州)

## 次回の質問

「両親は、悪態をついたり、騒々しい音楽を聴いたり、不適切なテレビ番組を見たりします。特に日曜日に、家庭で御霊を感じられるようにするにはどうすればよいでしょうか。」



### 試してみたらどうだい

「何年も前、息子の一人がわたしに、アルコール類やたばこがどんなものか経験してみるのがどうしていけないのかと、尋ねてきたことがあります。……わたしは、そんなに自分で試してみたいなら、納屋に行ってみて、ちょっと肥料を食べてみればいいと答えました。息子は恐ろしくなったようで、『気持ち悪いこと言わないでよ』と言いました。

わたしは『そうだよ。だけど、実際どんな味がするか、ちょっと試してみたらどうだい。ある物が自分のためにならないと分かっているのに試してみたいのなら、その考え方を他に応用してみても悪くはないだろう』と言いました。」

十二使徒定員会  
ダリン・H・オックス長老  
「罪と苦しみ」  
『リアホナ』1994年4月号, 31 - 32

あなたの意見と、希望する場合は高解像度の写真を、2015年7月1日必着で [liahona.lds.org](mailto:liahona.lds.org) まで、あるいは電子メールで [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) へ、または郵送で(3ページの住所を参照)お送りください。

電子メールまたは手紙には、次の情報と承認の言葉を必ず明記してください。(1) 氏名、(2) 生年月日、(3) ワードまたは支部、(4) ステークまたは地方部、(5) 意見と写真の掲載を許可するというあなたの同意文。18歳未満の場合は保護者の同意文も必要です(電子メール可)。

掲載される際、誌面の都合上、あるいは<sup>明瞭な</sup>表現にするために編集されることがあります。



# 聖文研究 パズル

パズルをつなぎ合わせるのと同じように、聖文を学ぶたびに、神の真理の全体像が少しずつ見えてきます。

コーディー・フィリップス

**20**11年9月、ベトナムのある大学の学生たちが、世界で一番大きなジグソーパズルをつなぎ合わせて新しい世界記録を打ち立てました。1,600人の学生が17時間かけて、全55万1,232片をつなぎ合わせたのです。

彼らは縦15メートル、横23メートルのパズルを完成させました。パズルにはスイレンの花と6枚の葉が描かれていて、それぞれの葉は、人、地理、歴史、文化、教育、経済を表していました。想像してください。50万個以上の小さな断片で一つの巨大な絵を作ったのです。パズルの一つ一つの断片はあまり重要性も魅力もないように見えますが、ほんの一つでも欠けてしまうとパズルは不完全です。

聖文はジグソーパズルに似ています。多くの断片をつなげばつなぐほど、神の計画の真理がよく見えてきます。その計画がよりよく見えてくるにつれ、聖文が興味深いものであり、自分の生活に関係していることが分かります。

以下は全体像と、細かい部分を見るのに役立つ聖文学習を行うための提案です。これらの断片をつないでいけば、聖文に隠されている、驚くべき真理が見えてくるでしょう。

## 教義——永遠の真理を教える大きな断片

聖文は福音の教義と原則を教えます。「〔聖文〕は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え〔る〕のに有益である。」(2テモテ3:16) わたしたちはイエス・キリストによってのみ救われる(ヨハネ14:6参照)ので、主と主の教義について学ぶ必要があります。だから、主はわたしたちに聖文を「調べ」るよう命じておられます。聖文は「〔主〕についてあかしをする」からです(ヨハネ5:39)。

## 人々——教訓を教える色とりどりの断片

聖典には何百人もの人物が登場します。皆さんの一番好きな人物は誰ですか。危険な目に遭っても勇敢に従順さを示したアンモンを尊敬しているでしょうか。あるいは、不動の信仰と高潔な人格を持っていたヨブを思い浮かべているでしょうか。


自らの主人に話しかけたロバの話(民数22章参照)や救しを受けるために王国を喜んで差し出した邪悪な王の話(アルマ22章参照)、あるいは、町中の人々から徳高い人として知られていた女性の話(ルツ1-4章参照)を読んだことはありますか。

聖典にはあまり尊敬できない人々も登場します。彼ら自身や彼らがした悪い選択から、どんなことが学べるでしょうか。

聖典に登場するさまざまな人物に注意を向けて、彼らの良い模範に倣い、間違いを避けるにはどうすればよいか自問







しましょう。彼らの人生を構成するパズル片は、最も興味深い、色鮮やかな断片です。彼らの経験を通して、効果的に福音の原則を学び、覚えておくことができます。

### 象徴——隠れた断片を見つける

聖文では、福音の原則を教えるために象徴が用いられることがあります。象徴がよく見えないと、パズルの断片が足りなくなってしまう。教会やセミナーのクラスの他に、

『聖句ガイド』、セミナーやインスティテュートの教材などの学習補助教材は、隠れた断片を見つけるのを助けてくれます。

例えば、アブラハムとイサクの話（創世 22 章参照）は靈感あふれるものですが、それが天の御父の犠牲と救い主がわたしたちのために行われた贖い<sup>あがな</sup>の犠牲を表していると分かると、さらに深い意味を持ちます（モルモン書ヤコブ 4：5 参照）。





### 神はわたしたちに 語られる

「神に話しかけたいときには、祈り、神から話しかけてもらいたいときには、聖文を読むことができます。なぜなら神の御言葉は神の預言者を通して語られるからです。そして、聖霊の促しに耳を傾けると、教えを授けていただけるのです。」

十二使徒定員会  
ロバート・D・ヘイルズ長老  
「聖文——救いを得させる神の力」  
『リアホナ』2006年11月号, 26

### 聖霊——つながる断片を見つける

互いにつながりそうに見えるのに、きちんと合わない断片もあります。御霊は、どの断片とどの断片が本当に合うか、分かるよう助けてくれます。祈り、深く考えることで御霊の助けを求めるなら、御霊は、以前に学んだ聖句が今学んでいる聖句とどのようにつながるか、そしてそれらの教えがあなたの生活にどのように当てはまるか分かるように助けてくれます。聖文の言葉から直接靈感を受けることができれば理想的ですが、読んだ内容について深く考えることによって御霊を通して靈感を受けることもあるのです。

### 応用——断片をつなぎ合わせる

断片をつないでいかなければ、パズルの絵は見えてきません。同じように、聖文から学ぶ教義、原則、戒めは、学んだことを実践しなければあまり助けになりません（ヨハネ7:17 参照）。毎日、聖文で教えられている福音の原則に従って生活するとき、あなたの信仰と証は強められ、聖文学習はあなたの生活で不可欠なこととなるでしょう。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。





# 福音 で結ばれた 姉妹たち

わたしは自分の生活の中で福音の祝福を経験してきたので、友達とその祝福を分かち合いたいと思いました。



パオラ・サラヒ・ヘルナンデス・クルス

**わ**たしは、ルピタという友達を自分の姉妹のように大切に思っています。わたしたちは6年生のときに会い、二人とも学校のマーチングバンドに入っていました。次の年には、さらに親しくなり、本当にお互いを頼りにするようになりました。彼女は、自分の家庭に問題があることを打ち明けてくれました。お父さんは家にいませんし、お母さんは彼女が必要としていた関心を寄せてくれていなかったのです。わたしは、彼女の両親が彼女の人生にあまり関わっていなかったことで、彼女が寂しい思いをしていることを知っていました。彼女は独りぼっちでしたが、彼女にはいつもわたしがついていました。

わたしは、自分がイエス・キリストの福音のある家庭に生まれたことを祝福と感じています。そのために、わたしの生活には、友達の多くが味わっていないような平安がありました。わたしは自分の生活の中で福音の祝福を経験してきたので、ルピタとその祝福を分かち合いたいと思いました。

わたしは彼女に教会について話をし、一緒にミューチャルに行こうと誘いました。彼女はそれを受け入れ、わたしやわたしの家族と一緒に教会に行ったり、ワードの活動に参加したりするようになりました。わたしは彼女を宣教師に紹介し、宣教師は彼女に福音を教え、バプテスマを受けるように勧めました。彼女は証を得て、彼女のお母

さんにバプテスマを受けていか尋ね、承諾の返事してもらいました。

彼女のバプテスマの日は特別な日になりました。それは、彼女が天のお父様と聖約を交わし、主を覚え、主の戒めを守ると約束した日だからです。その日、わたしは彼女に証を述べ、彼女がいる場所は間違っておらず、天のお父様は彼女のことを誇りに思っているに違いないと伝えました。わたしはルピタが大好きです。彼女がわたしの友達であることに幸せを感じています。今では福音で結ばれた姉妹です。わたしは、彼女がこれからもっと幸せな人生を送ることを知っています。それは彼女と彼女の将来の家族が福音の祝福にあずかることになるからです。

ルピタは、わたしが福音を分かち合おうと決心したことを、感謝していると言ってくれました。教会に出席するようになってから、自分の生活はずっと良くなって、平安を感じるようになっていくと、彼女は言っています。わたしは、彼女に真理を確信させたのは御霊であることを知っています。彼女は、いつの日か神殿で結婚したいとも言っています。わたしは天のお父様に感謝しています。それは、わたしが友達を見だし、わたしにとって最も価値あることを分かち合うときに喜びを感じるからです。■  
筆者はメキシコ、メキシコ州在住です。





じゅうにし とていんかい  
十二使徒定員会

L・トム・  
ペリー長老

じゅうにし とていんかい かいじん  
十二使徒定員会の会員は、  
イエス・キリストの  
とくべつ なしやうにん  
特別な証人です。

# どうしたら せいれいのみちびきを 受けることができますか

よい うまは、  
ごしや 御者がたづなでやさしくあひす  
あひす 合図すれば、  
ごしや 御者の望みどおりにうご  
うご 動きます。  
このやさしいたづなは、  
しず 静かな細い声のようなものです。

わたしたちはいつも  
せいれいのやさしさやきを  
う 受けられるように  
じゅんびしていなければ  
なりません。

わたしたちが  
せいれいのやさしさやきに  
ちゆうい 注意深くみみをかたむければ、  
てん 天のお父様のもとに  
みちびかれるでしょう。



イラスト：スージー・カーハート

ちゆうじつ  
「忠実さから  
生まれる従順」  
「リアホナ」  
ねん 2014年5月号  
100 - 103 から



# せいれい

(簡易伴奏)

飾らずに ♩ = 126-138

詞・曲：ジーン・P・ローラー

C A7 G7 C

1. しゅ は - む か し な ぐ さ め め し せ  
2. し ん - け ん の ち か ら に よ り え

F Fm G7 C

い れ い お く る と は な - さ れ た み  
い え ん の と も を さ ず - け ら れ ちい

Caug F B Em

た ま さ さ や く さい さ な こ え か  
さ な こ え き き み ち す べ て み

A7 Dm G7 C

み を あ か し し て こ 3 ろ も や す  
た ま の ひ か り で え ら ん で い ころ

©1977, 1989, 2014 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved.  
 教会あるいは家庭における一時的また非営利目的の使用に限り、複製することを許可する。  
 複製の際はこの通知部分を含めること。

# よ ひっじ 良い羊かい

エリン・サンダーソン

ある日イエスは、ある羊かいの物語（たとえ）をお話しになりました。羊かいは自分の羊を守るためなら、自分の命も投げ出すほど羊を愛していました。わたしたちは、このお話に出てくる羊のようです。そして、羊かいはわたしたちの救い主であられるイエス・キリストです。主は良い羊かいとよばれることがあります。

何人かの親が子どもをイエスに会わせたいと連れて来たことがありました。イエスは言われました。「おさな子らをわたしのところに来るままにしておきなさい、止めてはならない。神の国はこのような者の国である。」(ルカ 18:16) そして子どもたちをうでにだいて、祝福されました。目をとじて、救い主があなたをだいて祝福してくださっていると想像してみてください。イエスについて学んだり考えたりするとき、主の愛を感じる事ができます。良い羊かいであるイエスの愛を感じられるように、せいれいが助けてくださいます。■

このお話を書いた人はアメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。



## かぞく はな あ 家族の話し合い

ヨハネ 10:1-5, 11-16 を読んで、イエスが羊かいのようであられる理由を挙げてください。またこれまで救い主の愛を感じたときのことについて話しましょう。

うた 歌 — 「イエス様のお話を読む時」(『子供の歌集』35)

せいく — ルカ 18:15-17; ヨハネ 10:1-5, 11-16

ビデオ — 「おさな子らをわたしのところに来るままにしておきなさい」「イエス、おさな子のようにならなければならないと教える」(Biblevideos.org)



## よいひつじ 良い羊かい

この絵を切り取ります。白い線にそって  
おうぎのように折ります。開いて、右と左  
両方から見ましょう。どのように、よいひつじ  
かいの愛を感じますか。

## せいぶん 聖文のヒント

『聖句ガイド』で「福音書」のこうを調べ、  
どの福音書にどの出来事や教えが書かれ  
ているかをしめす表を見てみてください。  
よいひつじかいについて書かれているのは、  
ヨハネによる福音書だけです。3つの福  
音書（マタイ、マルコ、ルカ）には子ども  
たちを祝福されるイエスについて書かれ  
ています。





## わたしたちの ページ



わたしは バプテスマを 上げる 日が まちきれませんでした。  
 きょねん、わたしが 8才に なったとき、  
 お父さんと お母さん、かぞくや 教会の 友だちが  
 わたしの バプテスマ会に 来てくれました。  
 それは わたしにとって すばらしい けいけんでした。  
 わたしが バプテスマを 上げて  
 イエス・キリストの でしに なるという  
 けっしんを したことを 天が よろこんでいるのだと  
 知ることは すばらしいことでした。  
 バプテスマを 受けるとき  
 わたしたちは 天の お父さまと せいやくを かわします。  
 わたしの けっしんが 正しく、ふさわしいので、  
 天の お父さまは よろこんでくださっていると 分かりました。  
 サリア・Z, 8才 (ホンジュラス)



これは しんでんに いる わたしの かぞくの えです。  
 シェリッサ・T, 8才 (メキシコ)



ぼくは、自分の Tシャツに  
 ヒラマンの へいしたちの 絵を かきました。  
 ぼくは ヒラマンの へいしたちのように  
 ちゅうじつで、ゆうきが あって、  
 かみの いましめに じゅうじゅんな 人  
 になりたいです。  
 Z・ユーエン, 6才 (たいわん)



ぼくたちは お父さんと お母さんに  
 しんでんに つれて行って もらうのが 大きいです。  
 とても うつくしい ばしょで、そこに いると  
 かみさまを 近くに かんじるからです。  
 ニーファイと ブライアン・V, 6才と 9才  
 (エクアドル)



# よい ひつじかい

ヨハネ 10: 1-5, 11-16

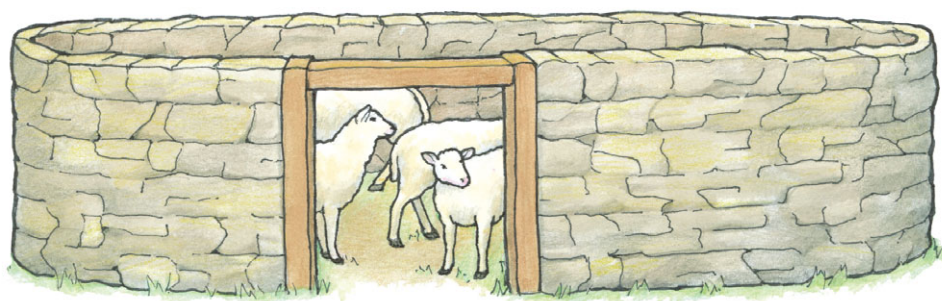
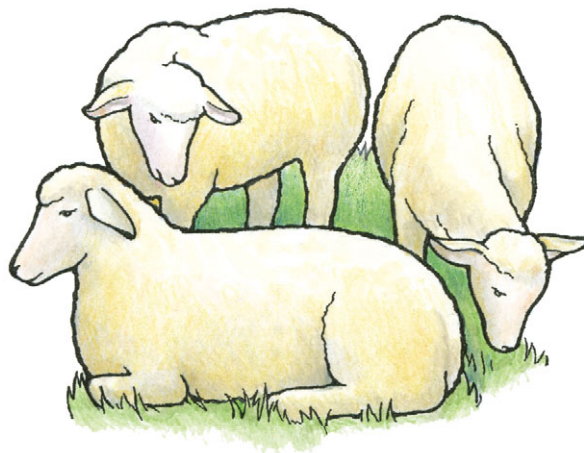
この ページを あつ紙に はります。人の 形を 切りとって  
ほうや 紙ぶくろに はり、ふうとうに 入れます。  
ふうとうの おもてに さんしょうせいくを 書いた 紙を  
はっておきます。■



ひつじかい



どろぼう



liahona.lds.org から、  
もっと コピーが  
できます。

# スティーブンの最初の 未来の父の日

ケリー・ジョージ・パーシル  
ほんとうはなしはなしかか  
本当にあったお話をもとに書かれました。

スティーブンは初等協会の子どもたちが新しい歌を練習する間、ネクタイをくるくると丸めてあごの下につけていました。こんな歌を歌うなんて、まっぴらごめんです。

家族をみちびくお父さん……

スティーブンはまどの外を見たり、天井をながめたりしています。いすにすわりながら動きすぎて、まるでおどっているようでした。歌いたかったとしても、スティーブンには歌えませんでした。何か大きなやなものが、のどにつかえているようでした。初等協会の他のみんなは歌い続けて、新しい歌詞を1行ずつ覚えていました。

知恵の光で 正しい道へ

やさしくみちびくお父さん（「お父さん」『子供の歌集』[英語] 209）

スティーブンはだれかがうでをトンとたたくの感じました。初等協会の部屋に続く廊下から静かに見ていたお母さんが、やさしくスティーブンのうでをたたいたのです。お母さんはスティーブンを廊下に連れ出しました。初等協会の友達からはなれて、スティーブンはなみだが止まりません。お母さんはスティーブンをだきよせて温かく、強くだきしめてくれました。

「泣いてもいいのよ。」そう言うとお母さんはスティーブンの背中を優しくたたいてくれました。「あの歌を歌っ



たり聞いたりするのがどんなにつらいかわかるわ。」

スティーブンはうなずきながら、なみだをぬぐいました。「ぼくにはお父さんがいないから、父の日になんか歌いたくないよ。」スティーブンは目を真っ赤にしながらくちびるをかみました。「もうあの人をお父さんでよびたくない。ずっと会ってないし、ぼくのお父さんでいてほしくない。」

スティーブンは何とか泣かないようにこらえましたが、まだみんなの歌が聞こえていました。あの歌を聞くと、心のおくがいたくなります。お父さんから手紙が来て、お父さんと新しいお父さんはスティーブんと弟にはもう会わないことにしたと書いてあったときに感じたのと同じ気持ちでした。

スティーブンをもう一度だきよせたお母さんのシャツに、スティーブンのなみだがまたしみこみました。「初等協会の会長さんに話してみるわ。もし歌いたくないのなら、歌わなくてもいいわ。でもね、お母さんにいい考えがあるの。」お母さんはスティーブンの目をまっすぐに見ました。「今年は父の日はお祝いしないことにしましょう。その代わりに、未来の父の日をお祝いするのよ！」にっこりするお母さんをスティーブンは見つめました。

「どういうこと？ 何をお祝いするって？」

「未来の父の日よ。あなたたち兄弟



ふたり  
二人がいつかどんなにすてきなお父さんになるかを想像してお祝いするのよ。プレゼントにケーキ、そしてあなたの好きなジュースも用意しましょうね。」

お母さんはスティーブンのおでこにキスすると、丸まったネクタイを直そうとしました。「スティーブン、あなたは最高のお父さんになるわ。お母さんには今から分かるの。だって、あなたは自分の子どもに何をしてあげようかとか、どんなお父さんになるかとか、今からもう考えているんですもの。」

スティーブンはお母さんの話したことを考えれば考えるほど、えがおになってきました。スティーブンはお母さんをだきしめると、ずっと良い気分

しよとうきょうかい  
初等協会にもどることができました。

2週間後、スティーブンは鏡の前に立って、カッコいい新品のちょうネクタイをまっすぐに直していました。それはお母さんが最初の未来の父の日を祝ってプレゼントしてくれたものでした。スティーブンは自分の聖典を持つと、玄関に行き、教会に向かいました。

スティーブンはお母さんにほほえみかけました。

「お母さん、父の日おめでとう。」  
お母さんはにっこりしました。「未来の父の日おめでとう、スティーブン。」■

このお話を書いた人はオーストラリア、クイーンズランド州に住んでいます。



トーマス・S・モンソン大管長  
「神権持つ子らよ」「リアホナ」2013年5月号, 67

もくてき  
目的をもって  
けいかく  
計画する

「年齢やじょうきょうに  
かんけいなく、すべての人に  
かんこく  
勧告します。目的をもつ  
て人生を計画してくだ  
さい。」



# マイアのあかし





## アメリカ・ホーキンス

本当にあったお話をもとに書かれました。

「みたまささやく小さな声  
神をあかして心もやす」  
(『子供の歌集』56)

ね 時間はもう過ぎていましたが、  
マイアはまだベッドに入ってい  
ませんでした。自分の部屋のゆかに  
すわって、デュバルしまいが初等協会  
で読んでくれたことについて考えてい  
ました。「だれも借り物の光では立  
てない時が来るでしょう。」<sup>1</sup>

デュバルしまいはこども話してくれま  
した。「あかしはわたしたちの心の中  
にある光のようなものです。そして  
だれにでも自分自身のあかしが必要  
です。そうすれば、人生の中でつらい  
時期やサタンがゆうわくしてきたとき  
も、強くなれるのです。」

マイアはベッドに頭に乗せました。  
「わたしも、福音が真実だっていうあか  
しがほしいな」と思いました。でも  
一体どうしたら、あかしが得られたと  
わかるのでしょうか。マイアはおいのり  
が大切だということは知っていました。

「いのってみよう」と決心しました。  
教会が真実だと分かるような何か  
が起こるまでいのるのをやめないつもり  
でした。もし必要なら夜もねないで  
いのりつづけようと思っていました。

マイアはひざまずき、「天のお父様」  
とささやきました。「わたしは教会が  
真実であることを知りたいです。心で  
感じたいし、知りたいです。」

マイアは待ちました。でも、心に感

じたのは、いつもいるときに感じる  
おだやかな気持ちだけでした。何が  
間ちがっていたのでしょうか。あかしは  
来ないのでしょうか。

とても長い間ひざまずいていると、  
マイアの部屋のドアが少し開いて、お  
父さんがのぞきこんできました。

「ドアの下から明かりが見えたんだ  
よ」とお父さん。「また起きて本を読  
んでいるのかい。」マイアのおおにな  
みだが伝わっているのを見るとお父さん  
はひざまずいてマイアをだきしめて  
くれました。「どうしたんだい？」

マイアは少しの間だまっていました。  
それからこう聞きました。「お父さん、  
あかしってどうやったら持てるの。」

お父さんはマイアをぎゅっとだき  
しめてくれました。「いい質問だね。」  
あかしがほしいと思うのは最初の  
一歩なんだよ。

マイアはのどのつかえが取れていく  
のを感じました。

「普通はね、たった1回いのりだけで  
はあかしは得られないんだよ。あかし  
が得られたら、それが強められるよう  
に努力していかないといけないんだ。」

「でも、あかしってどこから来るの。」  
マイアが聞きました。

「あかしはせいれいから来るんだよ」  
とお父さんが教えてくれました。「家  
庭の夕べや教会で温かくて良い気持  
ちを感じたことがあるかな。」

マイアは考えました。「学校が始ま  
る前に特別な祝福をしてもらったとき、  
良い気持ちでしたわ。」もっとないか

かんが  
考えてみました。「そう大会でモンソ  
ンだいかんちょう  
大管長のお話を聞くときはいつも温  
かい気持ちにする。それから友達に親  
切にしたりときや、聖文を読んでい  
るときに、良い気持ちにするわ。」

お父さんはにっこりしました。「そう  
いう気持ちは、せいれいが話しかけて  
くださっているんだよ。せいれいは、  
みんなが正しいことをしたり、真実の  
ことを聞いたりするとき、そのような  
気持ちをあたえてくださるんだ。」

「今は温かくて幸せな気持ちにする  
わ」とマイアは言いました。「それも  
せいれいな。」

お父さんはまたマイアをだきしめて、  
「そうだよ」と答えてくれました。「話し  
合っていることが真実だと教えてく  
ださっているんだよ。そうやってあかし  
が得られるんだ。」

マイアがベッドに入ったとき、自分  
にちゃんとあかしがあるとは思いま  
せんでしたが、お父さんが話してく  
れたことは本当だという温かい、良  
い気持ちを感じました。この気持  
ちはただの始まりにすぎないと知  
っていました。

マイアは温かい毛布にくるまりなが  
ら目をとじました。ねむる前に、こ  
うささやきました。「天のお父様、あ  
かしを持てるように助けてくださ  
って感謝します。そして、お父さん  
にも感謝します。」■

このお話を書いた人はアメリカ合衆国ミズー  
リ州に住んでいます。

## 注

1. オーソン・F・ホイットニー、『ヒーバー・C・キン  
ボールの生涯』[英語](1967年)、450

# じゅうぶんの<sup>いち</sup>で たてた<sup>いえ</sup> 家

ジャネル・ウィリアムズ



こちらは ジャックです。  
これは ジャックの コインで、  
じゃらじゃら <sup>おと</sup>音が します。  
これは ジャックの  
じゅうぶんの<sup>いち</sup>、つまり  
もらった <sup>かね</sup>お金を10に  
分けたときの <sup>ぶん</sup>1つ分です。

こちらは ジャックが  
じゅうぶんの<sup>いち</sup>を おさめたとき、  
ジャックと あくしゅを  
してくれた ビショップです。







こちらは <sup>あか</sup>明<sup>いち</sup>るくて いつも <sup>よげんしゃ</sup>いのる 預言者です。よげんしゃは、ビショップが おくった  
じゅうぶんの<sup>いち</sup>で 「しんでんを たてましょう」と 言いました。その ビショップとは、  
ジャックが <sup>いち</sup>じゅうぶんの<sup>いち</sup>を おさめたとき <sup>ひと</sup>あくしゅを してくれた 人です。



これは <sup>しろ</sup>白く <sup>かがやく</sup>かがやく  
<sup>しんでん</sup>神殿<sup>ひかり</sup>です。光に つつま  
れた <sup>かみ</sup>神の <sup>いえ</sup>家<sup>いち</sup>です。  
これは <sup>いち</sup>じゅうぶんの<sup>いち</sup>  
で たてられた <sup>かみ</sup>かみの  
<sup>いえ</sup>家<sup>いち</sup>です。ビショップが お  
くったじゅうぶんの<sup>いち</sup>で  
「しんでんを たてましょう」  
と <sup>い</sup>よげんしゃが 言った  
からです。その ビショッ  
プは、ジャックが <sup>いち</sup>じゅう  
ぶんの<sup>いち</sup>を おさめたと  
き <sup>い</sup>あくしゅを してくれ  
ました。



これは 家族<sup>かぞく</sup>と ともに 結び<sup>むす</sup>固め<sup>かた</sup>られるために  
白く<sup>しろ</sup> かがやく しんでんに 行くときに 見せる<sup>み</sup>、  
ジャックの かがやくような とびきりの えがおです。■

この お話を<sup>はなし</sup> 書いた<sup>か</sup> 人は アメリカ合衆国<sup>がっしゅうこく</sup> ユタ州<sup>しゅう</sup>に 住ん<sup>す</sup>でいます。



# ジャックの じゅうぶんの<sup>いち</sup>は どこに あるのかな

ジャックが じゅうぶんの<sup>いち</sup>を おさめるための 8まいの コインが かくれているよ。  
 じゃらじゃら <sup>おと</sup>音が するよ。 さがしてみてね。





十二使徒定員会会長  
ボイド・K・  
パッカー会長

## 忘れなさい

友人の世界は音を立てて崩れました。  
妻を亡くしたのです。

不安や悲しみ、不名誉なこと、嫉妬、落胆、ねたみ、自責の念、自己弁護などで苦しんでいる人は、昔わたしがある祝福師から教わった教訓について、深く考えてください。その祝福師は、わたしが知っている中でも、まさに聖徒と呼ぶにふさわしい立派な人物でした。……

彼は小さな町で育ちました。ひとかどの者になりたいという望みを抱き、苦勞して教育を受けました。

愛する女性と結婚し、万事が順調でした。良い仕事を心得、将来は希望に満ちたものでした。心から愛し合う二人に、やがて子供が誕生することになりました。

ところが、出産の夜に問題が起こりました。大変な難産になったのです。一人しかいない医者には、遠くまで往診に出かけていました。……

その医者がやっと来てくれ、迅速に処置を施して緊急事態を切り抜けました。子供が生まれ、危険は去ったかのように思われました。

しかし、数日後、若い母親は、あの晩、医者が往診先で治療していた患者の病気に感染して亡くなってしまいました。

ジョンの世界は、音を立てて崩れました。全ての歯車が狂い、全てがうまうまなくなりました。妻を亡くした



のです。赤ん坊の世話をしながら仕事などできるはずがありません。

日がたつにつれ、悲しみにますます心はふさいでいきました。「あの医者を医療に従事させてはならない。感染症を妻に移したのはあの医者だ。注意さえすれば、妻は死なずに済んだのに。」

そんなことばかり考え、恨みが募って攻撃的になっていきました。……

ある晩、玄関の扉をノックする音がしました。出てみると小さな女の子が一人立っていて、「パパが来てくださって。お話がしたいそうです」とだけ言いました。

「パパ」というのは、ステーキ会長のことでした。……

この霊の牧者は自分の羊の群れを見ていて、彼に言いたいことがあったのです。

その賢い僕の助言は簡単なもの

でした。「ジョン、忘れなさい。何をしたところで奥さんが帰って来るわけではない。何かをすれば、それだけ悪くなる。ジョン、忘れなさい。」……

彼は苦しみ、自分自身と闘いました。やがて、他のどんな問題があろうと、従順になるべきだと考えるようになりました。

従順は強力な霊の薬です。万能薬にも匹敵します。

彼はその賢明な霊の指導者の助言に従おうと決意しました。忘れることにしたのです。

ここまで話すと、彼はわたしにこう言いました。「……結局、あの医者が気の毒な町医者だったと思えるようになったのは、年を取ってからだったよ。忙しいばかりで収入は少なく、次から次へと診察に駆けずり回って、薬もろくになければ病院もなく、器具もほとんどない。そんな中で命を救おうと必死だったんだ。たいていの場合は立派な仕事をしていたしね。

母子ともに命が危ない状況で、迅速に対処してくれたんだ。」

そして、もう一度こう言ったのです。「ようやく理解できたときには、すっかり年を取ってしまっていたよ。わたしは自分の人生をだめにするところだった。そして、他の人の人生もね。」

「ジョン、忘れなさい」とだけ勧告してくれた賢明な霊の指導者を与えてくださったことを、幾度もひざまずいて主に感謝したそうです。■

「ギレアデの乳香」『聖徒の道』1988年1月号、17-18より



# 洞 察



**人生においてどんな態度が大切でしょうか。**

「この世の生涯は神に会う備えをする時です。わたしたちは幸福で喜びあふれる民です。優れたユーモアのセンスを評価していますし、友人や家族とのんびり過ごす時間も大切にしています。しかし、わたしたちが認識しなければならないのは、人生をどう過ごすのか、あらゆる選択にどう対応するのかということの基となるまじめな目的があるということです。」

# 今月号のその他の記事

## ヤングアダルト

### 主の保証 を信頼して

必ずしも試練から救い出されるとは限りませんが、主がわたしたちを御存じで喜んで試練の時に助けてくださるということを、常に確信することができます。



42  
ページ

## 青少年



56  
ページ

### でも、この場合は どうでしょうか

伝道に出ることについての質問

自分が福音についてよく知らないということや、証が十分に強くないこと、とても人見知りだということが心配ですか。伝道前のよくある質問や心配事への答えをここで見つけましょう。

## 子ども

### マイアの あかし

マイアは福音についての自分自身のあかしがほしいと思いました。マイアがどうやってそれができたのかを見つけてみましょう！



74  
ページ